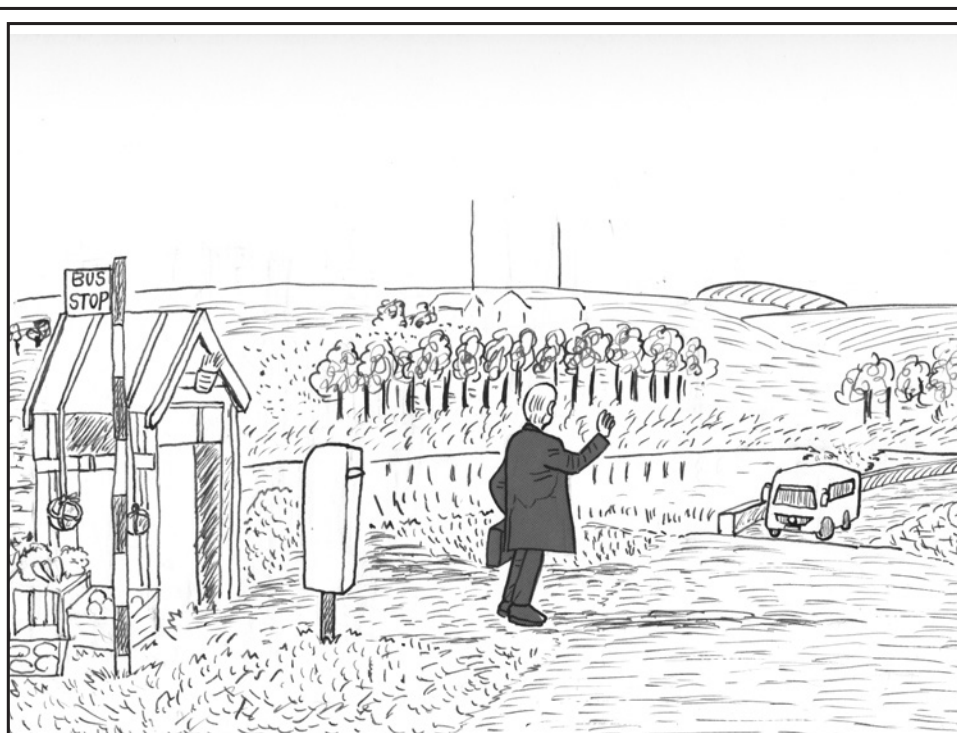


シネマ気球

第42号 200円

シネマ気球©

編集兼発行人 関田孝正
〒270-0107
千葉県船橋市西栗井 339-2
TEL 04 (7153) 1533
FAX 04 (7156) 7122



君を想い、バスに乗る

老人のイギリス縦断バスの旅

イギリス映画。シリーズ・マツキノ監督。老人がバスを乗り継いで、イギリス北部のスコットランドから南のイングランドの海辺の町まで縦断するロードムービー。老人（ティモシー・ポール）は妻と何十年も幸せに暮らしていたが、妻はある日庭仕事をしている最中に倒れ、そのまま帰らぬ人となってしまった。この老夫婦は若い時分に、何かに急ぎ立てられるようにイングランドの南の町から、スコットランドまでやってきた。老人はメカニックの仕事をして生計を立ててきた。自動車修理などお手の物だ。老人はトランクひとつで旅を続ける。バス旅の理由がそのトランクの中に隠されているようだ。

満員のバスの中で若者が異教徒に嫌がらせをする。老人はその若者を注意して小突かれたりするが、周りの乗客は老人に加勢して若者を非難しバスから追い出してしまふ。そのときに誰かがその様子をスマホで記録し、それが世間に拡散していく。今時の物語だ。

勇気をもって車中で行動した老人がバス旅をしているということが、知れ渡っていく。老人は何かに憑かれたように南をめざす。若い頃に夫婦二人で南から北へたどった道を逆走しているのだ。若い二人で泊まった同じホテルの同

じ部屋での宿泊を望んだりする。老人は思い出に浸ろうとしている。カバンを盗まれそうになる災難にも遭う。バスの運転手にも良い人もいればどうかと思う人もいる。スコットランド内は老人はフリーバスなのだが、スコットランドを越えてイングランドに入るとフリーバスは使えない。そこで「すぐ降りろ」と言う運転手。乗客からどうする。見知らぬ人から彼らの主催するパーティーに招待されたりする。好意を受けるものの旅を急ぎたい老人はパーティーを早めに切り上げる。老人自身もガンに犯され余命幾ばくもないのだ。

夫婦は若い頃に1歳に満たない乳幼児を病気で喪った。妻は失意の余りに遠くへ行きたいと夫とともに北上してスコットランドにやってきたのだ。老人は新婚生活を始めた海辺の町へ着き、そこでトランクから取り出したのは、妻の遺灰。それを堤防から海にまく。それから……。

悲しい過去、それを振り切つてだろう、手を取り合つてだろう、長いのか短いのかわからないが、ふたりの生活が続いた。一方が欠け、そしてまた。これが人生か。問題は、the Last Bus。

(流 漂介)

傲慢な男たちを切り捨てた 「フエミニースト」リドリー・スコット

『私は今まで作った映画に後悔したことは一度もない。私は自分こそが自分にとっての一番の批評家であるということに早い段階から気づいている。』

とは、リドリー・スコットの自信にあふれた言葉だ。なかなか、ここまで言いきる監督は見当たらない。返す言葉がなくなってしまう。これは、周りの批判を恐れず自分の世界を創り続けた者だけが言えるメッセージかもしれない。

○ 「最後の決闘裁判」(2021)は、最初、マット・デイモン(代表作は王道として「ジェイソン・ボーン」シリーズ)が原作を気に入り、ベン・アフレック(代表作は特になが、ひねって「ゴーン・ガール」(2014)と、男目線から脚本化した。さらに、原作にはなかったという女性視点からニコール・ホロフセナーが参加しシナリオを完成させる。そこでマットが、かつて「オデッセイ」(2016)で組んだリドリー・スコットに演出を依頼したという経緯

がある。「最後の決闘裁判」は、地位・権力・プライドなどで「男社会」が支配していた14世紀フランスが舞台で、決闘により運命が決まる史上最後の裁判を描く。つまり、武力による解決で勝った方が「正義」になる。現代では、到底考えられない乱暴な裁判だ。真実など、どうでもいいわけだ。しかも、決闘そのものを見世物にしてしまう。この裁判の原因は、騎士ジャン(マット)の妻マルグリット(ジョディ・カマー||新人)が友人のジャック(アダム・ドライバー、御存知、「S.W.」のカイロ・レン役)にレイプされたことにある。それを知ったジャンが訴えたが、ジャックは無実(目撃者がいない)を主張。それを受けたジャンは、決着をつけるための決闘裁判に挑む。

○ 裁判になるまでの経緯を、スコットは当事者3人(夫、友人、妻)の視点から話を繋いでいく。つまり、ひとつの出来事が異なる角度から描かれるわけだ。それぞれの

「最後の決闘裁判」

自分目線、自己中心の映像だから細かいズレや思惑が生まれ、なかなか興味深い。ジャンは、武骨で直情型のマッチョの目線。ジャックは、正反對のいわゆるブレイボリー、女性は自分の思い通りになると、常に思っている目線。2人とも見たくもない身勝手な人物だ。この2人の間でマルグリットは翻弄されるが、傷つきながらも声をあげるしたたかな妻の目線で描かれる。これは、かつて黒澤明が「羅生門」(1950)で用いたアプローチだ。人は、いかに自分に都合のいいように物事を捉えていることが、良くわかる手法ともいえる。黒澤は、それで人間のエゴをついた。が、スコットは当時、「男性優位社会」の中で女性の権利がいかに疎かにされていたかを細かに描いていく(とくに女性目線が鋭さを増す)。夫は、本当に妻のことを思っただけで裁判を起こしたのではなく、あくまでも自分の虚栄心、名誉のためだ。当時、女性は風潮として、強姦されても沈黙を守っていたという姑の言葉が、男

門馬徳行

性中心社会そのものを現している。レイプを告白した妻は、法廷の外で激しく中傷される。しかし、マルグリットはじつと耐え、決して時代に屈しまいとする。それは、決闘で負けた場合、妻も偽証罪で「火あぶり」になってしまうことを告げずに裁判を起こした夫を、激しく非難することにも表れている。結局、死闘の末ジャンが勝ちジャックは残酷に処刑される。数年後、ジャンは戦死し生き残ったのはマルグリットと子供だけ。最後には勝ったのは、彼女だとスコットは言いたかったのだろう。

果たして3人のうち、だれが真実を語っていたのか。それは、観客自身が冷静に判断してほしいということだろう。が、主人公は、マルグリットなので彼女の言っていることが真実なのは明らかだ。しかし、3歩譲って、残りの2人にとってもそれが真実(というより、自分にとって都合のいい事実)だと言うなら、もう人の心はまさに救いのない自己満足、欺瞞の中に紛れ込んでしまっているカオス

そのものになっている。

○

思えば、スコットの「エイリアン」(1979)でも、「テルマ&ルイズ」(1991)、「G.I. ジェーン」(1997)でも画面の中を躍動、活躍していたのは強い女性たちであった。スコットは泣き寝入りするような女性を描かない。当初、「エイリアン」の主人公はヒロインではなく男性だった。スコットはそれを女性に変えている。当初のままのヒーロー物だったら、はたしてあのようなエモーショナルな展開にはならなかったのではないかと思われる。スコットには先見の明があったのだ。これらの作品の中では女性たちの存在そのものが魅力的に描かれている。あまり評判にならなかったミステリー「誰かに見られてる」(1988)でも、既にSFの古典になった「ブレッドランナー」(1982)でも女性たちは魅力的、かつパワフルに輝いている。最新作「ハウス・オブ・グッチ」(2022)もファッション界グッチの内幕ものだそう。今回、脚本に参加したニコルは、昨今の「#MeToo運動」を頭において書いたと言っている。このことは、スコッ

ト自身がかねがね持っていた問題意識をさらに増幅させた要因になったということだろう。つまり、これは14世紀の昔話ではなく、今も変わらない「21世紀男社会」にも通じるテーマということだ。すなわち、科学や生活は進歩しても世界の本質はなんら進歩していないのではないか、という問いかけだ。あるうことか、人類は「過去にまったく学んでいない」という悲しい現実がある。この男社会路線に反旗を翻し、並走しているのは、ジェームズ・キャメロンだろう。かれもしたたかな女性、たくましい女性をずっと描いている。だが、スコットと異なるのは、彼は戦う彼女らの後方に慈愛に満ち溢れた母性への思いを重ねていることだ。故に、「エイリアン2」のラストは人間の母とエイリアンの母とのすさまじい対決になっている。キャメロンは、シユワルツェネッガーを悪役にさせた「ターミネーター」(1984)も、世界を泣かせた「タイタニック」(1997)も、新たなCGの可能性を追求した「アビス」(1989)も、驚異的な特撮を見せた「アバター」(2009)などを始め、あきらめない戦うヒロインを連射している。

なかでも、「ターミネーター」のサラ・コナーは、「エイリアン」のエレン・リプリーと双璧をなす空前絶後のヒロインだろう。

○

今回のような歴史劇は、スコットは得意とするところだろう。デビュー作の「デュエリスト 決闘者」(1977)を始め、「グラデイエーター」(2000)、「キングダム・オブ・ヘブン」(2005)、「エクソダス 神と王」(2015)、など、きつちりと時代考証を踏まえ見応えのある歴史劇を撮っている。今回も、スコットの凝った絵づくりは、相変わらず健在で隙のない濃密な映像を作り出している。灰色がかった奥行きのある風景、衣裳、室内のローソクの灯りなどが、物語にリアリティを与えている。スコットと言えば、スモークの使い方が優れていると言われている。かつて、CMを撮っていたころに会得したそう。撮影には、一度に6台のカメラを回したらしい。ワンシーンを常に2、3台で撮影していた黒澤天皇をはるかに超えている。とても83歳の老人が撮った作品とは思えないエネルギーに満ち溢れている。あのクリント・イーストウッドに負けてたま

るか!との声が、どこからか聞こえてきそう。上映時間は153分。長いかな、と思ったがダレないので一気に見れる。その中でも見どころは、ラストのヴァイオレンスたっぷりバトルシーンだ。2人が甲冑をつけて馬上、地上での接近戦はリアリティ十分。甲冑のぶつかる音とか、争う2人の息遣いとかが画面から飛び出してくる。甲冑のつなぎ目、首元、足のつけねを狙うあざとい戦い。様式美を排除し、(肉を切らして骨を斬る)圧倒的な肉弾戦が続く。領主役でベンも出演しているが、いつもの彼とはまるで違う面が出ていて、まさに目見である。さらに、当時の支配階級、騎士たちがいかに一般民衆のことなど何も考えてない怠惰な生活に明け暮れていたかも暴かれる。ちなみにスコットは、撮影の際は2、3回のテイクで済ませるそう。何度も繰り返して芝居をさせる日本の監督とは演出スタンスがだいぶ違う。それだけ俳優を信頼しているということだろう。イーストウッドも演技に関しては、俳優まかせという。このへんに長寿監督の謎がありそう。マルグリット役に抜擢されたジョディ・カマーは、かつてのT

Vシリーズ「キリング・イヴ」で女のヒットマン役をやり、エミー主演女優賞をとっている。これがなかなかユニークな犯罪ドラマで面白かった。さすがにスコットの目に狂いはなく、難役を凛々しくこなした作品で一番輝いていた。彼女は、スコットの次回作にもキヤスティングされている。

○ 「最後の決闘裁判」は、興行的には、赤字だったらしい。が、まる

佐藤忠男死す

映画評論家の佐藤忠男氏が逝去された。行年91歳。映画評論の面白さを教えてくれたのが佐藤忠男氏である。

私が初めて氏の著作を読んだのは、高校生の頃、「黒澤明の世界」(1969年発行)だった。映画のあらすじとともに、黒澤明という映画作家が何を描こうとしているのかを分析していたのが面白かった。それ以後氏の著作をいろいろ読むようになった。「現代日本映画」「現代アメリカ映画」「現代世界映画」「日本映画思想史」「大島渚の世界」「小津安二郎の芸術」など。

自分でも氏に影響されていつぱしの映画評論家のつもりで映画評のようなものを書くようになった。映画の面白さを文章で表現するの

で気にしない様子ですぐに次作を発表していくのがスコットだ。思えば、彼の作品はいつも評価が分かれることで有名だ。あの「ブレードランナー」でさえ、最初は酷評でまったく客が入らなかった。

が、公開の場が映画館だけでなくネット社会などに広がっている昨今、作品の評価は長いスパンの中でこそ認知されるようになってきたと思われる。——この後、スコットは、やはり歴史劇の「ナポレ

はなかなか難しい。氏はうまく映画を分析して文章化しているといつも感心するばかりだった。

黒澤明の映画をリアルタイムで見たのはこの高校時代、『赤ひげ』が初めてである。当時、黒澤明は名監督として既に名声を得ていた旧作である『用心棒』や『天国と地獄』が東宝の映画館で2月の映画閑散期に黒澤明監督特集として上映されていたのを見て、名監督の映画とはこういうものかと感心した。それ以前の黒澤映画を名画座で追いかけるのはこの後のことである。そして新作も。

黒澤映画も面白いが、黒澤明の映画評論も面白いと、「黒澤明の世界」を読んで確信した。氏の映画評論の対象は日本、アメリカ、世界と広い。映画も面白いのだが、映画評論も面白いと佐藤忠男の文章にのめりこんだ。

オン」をフォアキン・フェニックスで撮るらしい。ネットフリックスにも作品をプロデュースしているし、かれの創作意欲は枯れることがない。この辺、世界的な巨匠の烙印を押されたクロサワが、自分の演出スタイルにこだわるあまり、映画を撮れなくなったジレンマに陥ったのに比べて、スコットにしたたかな〈映画職人気質〉を垣間見てしまうのは、的外れの見解になるのだろうか。映画が撮れ

氏は映画に限らず、マンガや教育、文学へと評論の対象を広げていく。私が学校を卒業して会社勤めをしていた頃、氏は「長谷川伸論」(1975年発行)を著した。

長谷川伸は股旅ものの作家であるが、長谷川伸以前のアメリカの西部劇にすでに日本の股旅ものを彷彿とさせる世界が描かれていることを明らかにした。この本についての講座が水道橋の秋田書店の会議室で開催されるというので参加し、ご尊顔を仰ぐことができた。

氏が話した内容はよく覚えていないが、参加者からの質問に対して「プロとして」云々というような言葉があったのが印象に残っている。プロの物書きとしての矜持のようなものを感じた。

その後、ずっと時代を経て、氏は評論活動などのかたわら、今村昌平の映画学校の校長職にあった。

ない監督の悲劇は、みんな知っている。スコットがこれからも、注目していかなければならない監督のひとりであることは、今更、言うまでもないだろう。

○ 『私にとって映画は仕事ではなく情熱なんだ。だから、私にはホリデーは必要ないよ。』

私はごまめ書房という小出版社を興し、そこで元松竹プロデューサーである斎藤次男氏の1960年代の映画製作裏話を書いた「昭和映画屋渡世 坊っちゃんプロデューサー奮闘記」(2015年発行)という本を発行することになり、本の帯に氏の推薦文を頂戴できないかと考えた。「ゲラ(本にする前の校正刷り)を読んで、面白かったら帯に推薦文を書いていただきたい」というお願いを手紙に認めた。氏から「読んでみます」と電話連絡があり、校正刷りを送ったところ、「面白い」との返事をいただいた。帯の文章を書いていただくことになった。次の一文である。

「かつての撮影所の映画作りの実際を、裏も表も率直に描いた本だ。とても面白いし、映画によせる思いに感動した」。氏のご冥福をお祈りします。(関田孝正)

ゆるい映画好き

パート2

中川恵彦

私人の評価 星5つで満点

相変わらずミューハーな映画好きです。2021年6月以降の紹介です。

6月に「ザ・ファブル 殺さない殺し屋」2019年公開の「ザ・ファブル」の2作目です。

1作目よりも、木村文乃さんが演じる洋子役の喧嘩の強さが際立ち、平手友梨奈さんが演じたヒナコ役もかなり良かったです。星4つ

9月には「狐狼の血 LEBEL2」2018年公開の「狐狼の血」の2作目です。

アマゾンプライムビデオで1作目を予習してから観に行きました。西野七瀬さんが演じたスナックのママ役が良かったです。

鈴木亮平さんと松坂桃李さんの喧嘩がグロすぎました。星3つ
10月には「007/ノー・タイム・トゥ・ダイ」ダニエル・クレイグさんが演じた007シリーズの最後の作品です。

過去にダニエル・クレイグさん

の007シリーズは全部で5作品ありますが、「ノー・タイム・トゥ・ダイ」に出演しているCIAエージェント、パロマ役を演じたアナ・デ・アルマスさんが最高にキュートでかつこい役でした。星4・5

11月には「そして、パトンは渡された」原作は2018年に出版されました。

永野芽郁さんの子供時代の役を演じた稲垣来泉ちゃんがかなり良かったです。今年前半の朝ドラマ「ちむどんどん」の暢子の子供時代も演じていました。映画はかなり感動しました。星4・8

12月には「あなたの番です 劇場版」テレビドラマ「あなたの番です」の劇場版です。

内容はテレビ版とのパラレルワールドで「なんだこりゃ！」って感じで途中でめずらしく眠くなっていました。

好きな女優さん結構出ていたのに：西野七瀬 奈緒 寛美和子 星2つ

2022年1月には「前科者」WOWOWオリジナルドラマ「前科者 新米保護司・阿川佳代」の続きです。

石橋静河さんが演じる斉藤みどりが良い味出しています。阿川佳代（有村架純）が保護司

になった理由が映画で明かされます。星4つ

2月には「ドリームプラン」プロテニスプレイヤー ビーナス・ウィリアムズ セレナ・ウィリアムズ姉妹をテニスの経験の無い父親がトッププロに育てていく話です。

人種差別や貧困を乗り越えていく感動作でした。星4つ

3月には「余命10年」原作は小坂流加さんの2007年に刊行された小説です。2017年にカバライラストを変更して刊行された文庫版では、難病を患っていた小坂さんが当初は避けていた闘病シーンなどが大幅に加筆・修正されたようです。

主演は小松菜奈さん坂口健太郎さんです。RADWIMPSの音楽にやられて涙しました。星4つ
5月には毎年恒例の「名探偵コナン ハロウィンの花嫁」劇場版第25弾です。相変わらず面白かったです。

来年の作品は黒の組織が出てくるようです!! 楽しみです。

劇場で観る以外にアマゾンやWOWOWで平均一日一本は観ています。

これからもなるべく劇場に足を運びたいと思います。

ダジャレ工房

山田 徹



友人が70歳になって俳句を始めました。毎朝食事前に散歩しながら俳句の題材を探すのだとか。→こういうのを「ハイカイ老人」というのですね。(本書より) これまで書き溜め、人様の前で発表したダジャレ160篇を一挙公開!

山田 徹・著

新書判 200頁 / 1000円 + 税

ISBN 978-4-902387-27-8

ダジャレ工房



ごまめ書房

〒270-0107
千葉県流山市西深井339-2
TEL 04-7156-7121
FAX 04-7156-7122

韓国の映画俳優たち

「グリーン・フィッシュ」
「ペパーミント・キャンディー」

星 文子

「もう一度見たい懐かしの映画は？」という質問に韓国では「グリーン・フィッシュ」が必ず上位に入るが、日本にもこの映画の熱狂的なファンがいるようである。百選を書いていたとき気になることがあってヤフーで検索してみたら、「子どもの頃兄弟で魚捕りをした川」や「大きな柳の木のあるマクトンの家」、「マクトンが組長を殺したあと電話をかけた公衆電話」(注1)など写真入りで映画の聖地巡礼の詳細な報告があり、驚いたことがあった。正確な時期は忘れたが「シユリ」が公開されて何年か後(2000年代の初め)

何かの映画のキャンペーンでハン・ソツキュが日本各地を回ったとき同行した通訳の知人によると(注2)、どこへ行っても「ハン・ソツキュさんですよ」と話しかけてくる人がいて、日本での人気ぶりと認知度に驚いたようだ。

ハン・ソツキュはもともと俳優を志していたが、大学の映画演劇科博士課程を修了後、本人曰く「顔に自信がなくて諦め」、1990年声優としてKBSに入社した。確かに韓国映画で主役を張る俳優は顔立ちが整っているのが主流だった。いわゆるイケメンでもなく、韓国人好みのエネルギー感も希薄なハン・ソツキュは、それまでにはいなかったタイプといえる。美声と正確な発音を武器にラジオドラマで大いに人気を博していた彼は、翌1991年MBCタレント公募に合格し、テレビドラマでも順調に人気を集め、注目されて映画進出を果たす。

と立て続けに興行を成功させた。特に1997年には主演した3本の映画が全てヒットした。その結果、映画界ではハン・ソツキュを主役に据えた企画が乱発され、ハン・ソツキュの一人勝ち状態となり、全ての脚本がまず彼に提供されるまでいわれた。90年代後半の韓国映画はハン・ソツキュ抜きには語れないが、そんな状況が当人にとって良かったのか悪かったのか、2000年代以降はこれといったヒット作がなく、テレビドラマに活躍の場を移している(「根の深い木」(2011)など)。

王様の衣装を手がける工房が舞台の映画「尚衣院」(2014)を見た、ハン・ソツキュが下っ端の弟子ではなく、その工房の長を務めていて、時の流れを実感させられた。それほどにハン・ソツキュ「グリーン・フィッシュ」のマクトン(「末っ子」の意)の印象が強いのだ。

百選に「シークレット・サンシヤイン」「ペパーミント・キャンディー」「ポエトリ・アグネスの詩」「オアシス」「グリーン・フィッシュ」の5作品が選ばれているイ・チャンドン監督(注3)は俳優を

見る目が卓越していて、その役柄に最適な俳優を選ぶことで定評がある。

監督の映画デビュー作である「グリーン・フィッシュ」でマクトンのすぐ上の兄を演じたチョン・ジニョンは映画監督を志していてこの作品には演出助手として参加していた。ところが卵の行商をする兄役の俳優が雲隠れしたあおりで、急遽代役に駆り出されたのだという。出番もそれほど多くはないが、演劇畑出身だけあって映画初出演とは思えない好演をし、以後も俳優として多くの作品に出演している。百選71位の「王の男」では、激しく愛を求める心と狂気の交錯する王、燕山君像を造形し高い評価を得た。また2020年には初めての映画「消えた時間」を発表し念願の監督デビューも果たした(日本でもほんの短い期間上映された不思議で魅力的な映画。JAIHO(注4)にリクエストを出しているがいまだに配信は実現していない)。

ソン・ガンホの映画デビュー作は「豚が井戸に落ちた日」だが、本人がデビュー作として掲げるのは「グリーン・フィッシュ」だ。

ソン・ガンホが出演した演劇を見たイ・チャンドン監督が直接キャストイングし、俳優たちとの顔合わせの席で彼の演技を手放しで賞賛したという。それに自信を得たソン・ガンホは「どこかで本物のヤクザをスカウトしてきたのではないか」と思い込んだ観客がいたほど、この映画で印象的な演技を見せている。

また、たまたま同時期に近くで撮影していた映画の演出助手だったボン・ジュノがその演技を目にして興味を持ちソン・ガンホを酒席に招いたのが2人の縁の始めで、後にソン・ガンホはボン・ジュノ監督の長編第2作にして最初のヒット作「殺人の追憶」をはじめアカデミー賞受賞作の「パラサイト」まで数編の作品で主役を務める盟友となった。

「グリーン・フィッシュ」の後、ソン・ガンホは「ナンバー3」「シユリ」にハン・ソッキュと帯同出演（注5）するなど順調にキャリアを伸ばし、ご存じのように今では韓国映画界を代表する俳優の一人だ。

「グリーン・フィッシュ」のヒロイン役シン・ヘジンは百選17位の

「結婚物語」と24位の「彼らも私たちのように」でもヒロインを演じている。「結婚物語」では仕事バリのキャリア・ウーマンであるのに比し、「彼ら」や「グリーン」では暗い表情の幸薄いお水系の女性を演じていて、人の顔の識別能力が低い当方は今回彼女の出演作をチェックするまで「結婚物語」のヒロインが他の2作品と同じ俳優とは気づかなかったくらいだ。

余談ながら、彼女は香港の王家衛監督のオフアールを受けて彼の映画への出演が決まっていた、その関係で彼女がモデルを務める化粧品ブランドSK-IIのCFを監督自ら撮影したこともあったという。しかし、残念なことに映画のほうは撮影があまりにも長引くのしびれを切らした彼女が途中で降板したそうだ。

「グリーン・フィッシュ」で非情な組長役を演じたムン・ソングンは「彼らも私たちのように」でもシン・ヘジンとコンビを組んでいる（注6）が、こちらでは指名手配を避けて、偽名で炭鉱村に潜伏している真面目な青年役だ。19位「競馬場へ行く道」では妻子があり

ながら、かつての恋人に執着する中年男、28位「光州事件―花びら」では少女に乱暴し虐待する労働者役というふうに、実に多彩な役柄で多くの映画に出演している。大学卒業後、会社勤めから俳優に転身した変わり種で、有名な反体制社会運動家であるムン・イクァン牧師の息子でもある（注7）。

「ペーミンント・キャンディー」は当初ハン・ソッキュが主演する予定だったが、スケジュールが調整できず、オーディションが行なわれた。三度オーディションを重ねても監督が主演俳優を決めかねていたところ、偶然オーディションの映像を見た監督夫人が「ここにキム・ヨンホ（「ペーミンント・キャンディー」の主人公の名前）がいるじゃない」とソル・ギョングを推薦したそうだ。演劇畑出身のソル・ギョングはそれまで映画で大役を務めたことがなかったが、20代から鉄道自殺を遂げる40歳まで、鬼気迫る演技で次第に純粹さを失って墮落していく男の姿を描き出し「1999年韓国映画が発見した最高の収穫」とまで絶賛され一躍スターダムに上った。続いて出演した映画も興行に成功し、

かくして2000年代はソル・ギョングの時代となった。現在はチェ・ミンシク、ソン・ガンホと並んで演技派トロイカの一人に数えられている。興行的成功の如何に関わらず、彼の出演作にはどれもよく言えば重厚さ、悪く言えば重苦しさが付随するのが特徴だ。演技に対する情熱も人並み外れていて「力道山」（2004）の撮影時には体重を30kgも増やし、台詞の6割ほどの日本語部分も日本語を独学して吹き替えなしでやり遂げたという。

「ペーミンント・キャンディー」にソル・ギョングやムン・ソリがキャストイングされたのは、演技力は別として、いわゆる美男・美女ではない平凡なところがポイントだったという。ムン・ソリは確かに典型的な韓国美人ではない。（注8）しかしだからこそ70年代末のあの時代の純粹さを体現するスニム役にふさわしかったのではない。「ペーミンント・キャンディー」が映画デビュー作だったムン・ソリはこの作品での演技を高く評価された。2002年には再びソル・ギョングとタッグを組んで69位「オアシス」に出演した。

軽い知的障害のためまともな職が持てず、犯罪を繰り返しては監獄を出入りしている男と、脳性麻痺で起居が不自由なため自立して暮らせない女。ともに家族にとつては厄介者の2人がふとしたきっかけで知り合い愛し合うようになる。脳性麻痺者に扮したムン・ソリのぎこちない動作や不明瞭な発語の演技に観客の中にはムン・ソリが本物の脳性麻痺者に違いないと信

「左卜全―七人の侍」

清水和昭

色川武大のエッセイ「なつかしい芸人たち」に『本物の奇人―左卜全のこと』がある。本文によると、卜全の奇行ぶりは茶屋だけでなく寄席のほうでも有名で、簡易書きにすると①薬草をつんできて茶屋で干す。②服装は着たきり雀で乞食に近い。③いつも松葉杖をついているが、バスにのりおくれそうになって、杖をかついで駆けだした。

④茶屋で定時になると体操をはじめ、奇声をあげてお祈りとなる。⑤もあるのだが、割愛するとして、③を見て思わず与平を思い出してしまった。菊千代（三船敏郎）が久蔵（宮口精二）に張り合っ

て、功を焦るあまり持ち場を離れたために、馬に乗った野伏せりに槍で突き殺されてしまう、あの与平のことだ。だから、いったでないか！』といつてこと切れてしまう。そのあと参謀格の五郎兵衛（稲葉義男）が銃弾に倒れる。

橋本忍の『復讐の映像』によると『生きる』の撮影中に黒沢明と話し合いがもたれ、次の作品を時代劇と決め、ある『侍の一日』というシナリオを作り始めていたという。しかしながら、資料を調べていくうちに暗礁に乗り上げ、次に『日本剣豪列伝』という企画を立てる。当時流行作家だった五味康祐など

じた人もいたという（専門医もそのリアリティに太鼓判を押すほどだった）。この2作品で映画界での地歩を確かにした彼女は、46位「浮気な家族」（2003）、12位「家族の誕生」（2006）など、その後も順調にキャリアを重ねているが、中年女性を主人公にした映画がまだまだ少ない韓国映画界で今後どのような活躍を見せるか楽しみである。

剣豪物は山ほどあるが、ネタ本は一本だけで、徳川時代に出版された『本朝武芸小伝』この本を図書館から借りて、脚本を作り上げた。ところが頭からおしまいまで、クワイマックスだけでは映画にはならない。いろいろなあつて、農民が武士を雇って村を守るという着想を得て、七人の侍が動き出す。ボツになった『侍の一日』は、十年後『切腹』（一九六二年松竹）として、監督小林正樹主演仲代達也がよみがえる。殺陣に、独特の型があつてとても印象深く、記憶に残る映画の一つだ。

一方、鬼つ子となつた『日本剣豪列伝』は、七人の侍のキャラクター設定のモデルとなつていく。

勘兵衛（志村喬）、劍聖、上泉伊勢守秀綱子供を人質に立てこもる盗賊を僧形に守り斬り捨てる挿話はそのままだった。別名、武蔵野守信綱ともいう。新陰流の始祖である。逸話ほ、もとは尾張柳生家の口伝であつたといわれる。

五郎兵衛（稲葉義男、塚原ト伝。勘兵衛が勝四郎（木村功）に棒を持たせて、戸口の陰より入つてきた侍を打たせる。最初の浪人山形勢は、よけた勝四郎を投げ飛ばす。飯を食べるために命をかけることよりも、仕官をしたといふ参加を断る侍、さかんに惜しかつた勝四郎、どうかな、と勘兵衛。次に、五郎兵衛が利吉（土屋嘉男）に連れられてやつてくる。戸口の前で立ち止まり、にっこり

（注1）『映画の中の印象的な公衆電話シーン』で上位に数えられる場面

（注2）『決してキャンベーン用の幟や看板を掲げて歩いてはいたわけではないにも関わらず（注3）』ももと小説家だったが、映画の脚本を手がけるようになり、ついに監督業に乗り出した

（注4）J A I H O (Jaisho) は映画のエキスパートが日本ではまだ知られていない傑作を探し出し、独占・日本初配権で届けるほか、一度は見るとは名作や話題作を配信するサービス。月額7700円。配信作品のリンクエラストも可能。映画館での上映を見逃すことの多い当方には願つてもないありがたい存在

（注5）『当時ソン・ガンホはまだプロダクションに所属していなかったため、ハン・ソックとして一言、二冗談を「お見事！」膝をポンと打つて立ち上がる勘兵衛。五郎兵衛は百姓の窮状よりも勘兵衛の人柄に惹かれて同行を決める。

久蔵（宮口精二）、新免武蔵、宮本武蔵。後年、内田吐夢監督、中村錦之助主演の求道者として描かれる武蔵より乾いた感じに剣鬼。小柄な宮口精二が大きく見える。大刀を腰に差して走る姿がとても精悍で美しい。己を高めるために参加。

菊千代（三船敏郎）が私共は『椿三十郎』で、はじめて映画館で観たのは『椿三十郎』で、小学校五年生のとき両親に連れられていった。池袋の日勝地下だったと思う。満員で通路まで人があふれかえっていた。当時はそれが当たり前で、子供だった私は大人の足の間を無理やりすり抜け一番前に出て、回が終つて空いた席を親の分まで確保した。今思えば癪に障ったひとはいたのだと思う。みんなタバコは吸っていたし、映画館はお世辞にもあまりきれいとはいへなかった。それでもリアルタイムで見るのができたのは両親のおかげである。あの決闘シーン、何が何だかわからなかった。あつという間の出来事で、観客がどよめいた。皆が目を見開いて息をのむというのだろうか、帰る道父が「頭動脈を切る」と血が吹き出るんだ」と話していた。

「頭動脈」という言葉その時初めて知った。今見ると三船が斬つたのは首ではないのが分かる。仲代が倒れた時に首に血があふれかえ

キユが自身のプロダクションで面倒を見ることにして、出演オファーが来るとソン・ガンホも抱き合わせ出演できるように計らった（注6）『百選には入っていないが「自由を求めて」（1994）でも2人は共演している。思いがけず脱獄してしまつたムン・ソングンら2人の囚人の逃避行を描いたロード・ムービーであるこの作品でも彼女は水系だが、気持ちよくはじけた演技を見せている（注7）『ちなみにお父さんのほうがはるかにハンサム』

（注8）『本人談「大学を出て間もなく映画の仕事に入ったので整形する暇もなかった」（笑）』とはいえ「映画に出るような顔じゃない」とまで酷評されるのはルッキズムの国韓国ならではのかもしれない

つていたのでそう見たのだらう。七郎次（加東大介、加東の著書『南の島に雪が降る』は、戦時中ニューギニアに派兵された兵士の苦居体験をつづった実録エッセイで、不朽の名著と言われている。平八（千秋実・林田平八まきわり流を少々・・・）

勝四郎（木村功）これで七人がそろつた。山崎努が伏し目がちに、考え考え言葉を紡いでいる。なにかしら怒っているようにさえ感じられる。「あの方は苦笑して、『あのね、映画作りというのは自動販売機にコインをいれてジュースを買うようにはいかないんだよ。毎日毎日楽しんでも、シユンカン、シユンカン楽しんで一生懸命、するといつつの間にか終わっているんだ。そういうものなんだ』いいました。」

僕はその言葉がいまも大事にしています。（NHKスペシャル 黒澤明映画はこう作られた証言秘蔵資料からよみがえる制作現場より）小林信彦は『黒澤明という時代』で「七人の侍」について「キヌマ句報」では第三位。一位は木下恵介の『二十四の瞳』。二位も木下の『女の園』というところに（時代）が出ている。と結んでいる。

封切りは1954年（昭和二十九年）四月、制作開始1953年五月。敗戦から十年もたつていない。

外国映画の森へ

森田洋一

オスカーノミニート作品

● ナイトメア・アリー 2021年

今年の3月公開、オスカーノミニート、ご覧になった方多いと思います。この作品、1947年製作、「悪魔の往く町」のリメイクです。オリジナル版は、タイロン・パワー、ジョン・ブロンデル主演。ラストの解釈が、オリジナルと今年公開のでは、異なります。ルーニー・マラーが電気椅子に座るシーン、オリジナルでは、宣伝の場面として使われています。異色な作品の印象が定着していた感じがあるものの実際、鑑賞してみると、かなり骨太の筋が通った、しかもミステリーの要素がある内容です。

● ペルファスト 2021年

ケネス・ブラナーの幼い時代の思い出をモノクロームで再現。背景には、北アイルランドのカソリックとプロテスタントの宗教対立

があります。

アイルランド版の「ニュー・シネマ・パラダイス」のような印象。劇中で紹介される映画、「恐竜100万年」、「リバティ・バランスを射った男」、「真昼の決闘」、「クリスマス・キャロル」、「チキ・チキ・バンバン」かと思っています。テレビ番組は、「スター・トレック宇宙大作戦」キャラクター商品は、サンダーバード、ジェイムズ・ボンドのオースティン、マイティ・ソーといます。

女性サスペンスや痛快アクション

● ラストナイト・イン・ソーホー 2020年

「ベイビー・ドライバー」の監督さんがサスペンスに挑戦。過去と現在、2人の女性が主人公です。一体過去に何があったのか、ミステリアスな展開で、ラストまで引っ張っていきます。映像、物語の展開、一級品と感じました。

● ガンパウダー・ミルクシェイク 2021年

甘さひかえめ、のキヤッチが面白いです。実際に鑑賞してみると、超過激な女性ガンバトルです。なにも考えずに気楽に見ることができると思います。

● 355 2022年

ジェシカ・チャステイン、ダイアン・クルーガー、ペネロペ・クルスなど豪華キャストによる女性スパイアクションです。ダイアン・クルーガーの魅力が際立った感じがしました。次々に舞台や展開がかわっていくので 目が離せないです。

クラシック映画

● 大雷雨 1941年

送電線の修理工たちの恋物語を描いた作品です。雷が電線に落ちてくるシーンが迫力ありました。エドワード・G・ロビンソン、ジョージ・ラフト、マルレーネ・デイトリッヒ、キャストを聴いただけで何となくどんな内容かが想像できると思います。

● ラステイ・メン 死のロデオ 1952年

隠れた秀作です。ロデオで賞金を稼ぐことがいかに大変か、を真つ向から描いています。ロデオのシーンが とても迫力があります。ロバート・ミッチャムとスーザン・ヘイワードの共演もみどころのひとつです。

● 丘の雷鳴 1951年

メロドラマが得意なダグラス・サーク監督がクローデット・コルベール主演に描いた人間ドラマです。修道院が舞台で大洪水と護送中の女性囚人の脱獄、自然災害とサスペンスを組み合わせて、メロドラマ調に仕上げています。

● 嵐 1939年

ロバート・シオドマク監督のフランス時代の作品。モリス・シュバリエが絶好調の演技。1947年に「誘拐魔」という作品で、ハリウッドでリメイクされています。

● モルナール船長 1938年

これも、シオドマク監督のフランス時代の作品です。前半がサスペンス、後半が家族ドラマといった感じ。アルベール・プレジヤンが副船長役で、出演しています。

● 男たち 1950年

フレッド・ジンネマン監督、マロン・ブランドのデビュー作品です。戦争で下半身不随になった男とそれを支える女性の物語です。テレサ・ライトの演技も素晴らしかったです。ラストは、涙・・・

—読者から—
〈第9回〉

出て行った会社、やって来た会社

農律捨丸

関田監督、お変わりなくお過ごしでしたか。私のほうは、少し身辺に動きがありました。それで現在、丸々八年間勤めた「自宅近くの県立公園」夜間巡回警備員の仕事を終え、約一時間の通勤で某役所のデータセンターの警備の仕事に通っています。変わらず夜勤ですが、ほとんどすることもなく、ひさしぶりの電車・バスの乗り心地を楽しんでいるところ。その顛末をお話させていただきます。

〔報告 一〕昨夏、ワクチンの第二回目の接種を受けた頃、夜の十一時に「ウマ出し」といって、公

園駐車場の入口をバリケードで封じます。この作業のときに、一台の黒いワンボックスカーがまだ停まっていた。若い一家と思われるのですが、酒の雰囲気あり。「もう閉めますよ」と声を掛けたのが、どう聞こえたものか、「あんなの名まえは？」名乗るわけにはいきません」ということになり、私は若い男女四人組に取り囲まれ、腕を引っ張られるやら、追い駆けられるやら、こりゃいかんという事態になりました。相棒もいますから二人で対応。それでも収まらず、三人目の宿直者まで応援に来てもらうようになってしまいました。ところが、それでも騒ぎ収まらず、いよいよ交番の警察官をたのみます。（これは相手が呼んだ）事態がやっと沈静したのは夜中の一時すぎ。警察を呼んでおいて、事情の説明を私にやらせるという妙な通報なのでした。それが土曜日の深夜のことで、明けて月曜日。警備会社の営業課長からすぐ来いとの電話。収まりきらない相手方からのクレームが会社へ来たのです。こうなると、これまでさんざんお話したように、会社はクライアント（公園）との関係しか大事にしませんから、私（気

の利かない老警備員）が客とトラブルを起こした事案としての処理シナリオが動き始めます。「百パーセント非があるとはいわないが」警備員の引き起こした不始末として、私は、こちらの弁明も聞かないうちから用意されていた始末書に印を押すことになりました。一方的なクレームでも、弱い立場の者の責任にするのが営業世界の裁きの鉄則ですから、私も、たとえ腹の中は煮えくり返っていても、従うのです。この時は、六名十三名、九名、このジイさんたちの雇用延長が；などと、えらくまともな配慮が働いたり、じつに自分は小心な心境でした。と、これはよくある話ながらも、煮え切らない自分が、手も足も出せない仕組みの中にいる現実を、ひたすら飲み込んで過ごす日々の始まりでした。その三週間ほど後、同じ駐車場で、私に直進してくるワンボックスカー。直前でキュツとハンドルを切った隣の料金口へ向かうことがありました。まだ私のクビがつながっているかどうか、おたのしみに来たようなのです。底辺労働者の無念ここに極まりでした。

〔報告 二〕そして冬、三月までの五年契約がいよいよ切れます。もう、十年も仕事がつづいている古老はじめ、そろそろ終わりだななどと、お互いにこの仕事の終わりが近づいているのではないかと、軽口もでるようになります。そして実際、そうだったのです。二月のはじめに、先の営業課長が珍しくもやって来ました。私の当番に一度も顔を見せなかったのに。いわく、「入札で負けました。来月末で終了です」。宣告を受け止めかねているこちらを尻目に、あとは貸与の防寒衣（ドカジャン）の回収法くらいしか関心のない様子。新社のことも知らん、われわれの身の振り方も知らん、というわけでした。その後の数週は、天井の抜けた気分で過ごしましたが、どうせ何とかなるだろうの期待と、ここらが潮時かという気持ちに揺れて、みな思い思いでした。清掃でも警備でも、こうしたワークでは、請け負った会社がかわつても、作業者たちはそのまま雇用がつづくことがよく起こるようです。だから、一度に九人も要員を確保してリスタート出来るものかと、たかをくくっていた面もあります。新聞の求人チラシにもこの募集は載らず、やはりこのままそっくり移籍だろうと判断するようにな



りました。そしてすぐにひな祭り。新しく、この公園の夜間巡回と宿直の長期契約を落札した新会社の人間と接触を持ちます。穏やかに、必要なことに限ってという姿勢で接点を持ちました。(なんだか大げさですね) まずは、やれやれということでしたが、二日後、まだ私一人が身支度中に再度、同一人物がやって来ました。そして、「皆さんの仕事はこれまでどおりなのですが、農律さんについては違うこととなります」。

《報告 三》「どこからの話とはいえませんが、農律さんは正義感が強いでしょう」。どうやらクライアント筋から注文がついて、あの、何かとトラブルの元をつくる警備員を交替させてくれというこのようでした。そりゃ、たしかによ

く問題は起こしてきました。しかし、それらはいずれも、市民としての私が放っておけないと思うこととことです。見て見ぬふりやら、マアマアで済ますやら、私として大いにそれをするようになっていくのですが、それでも問題化せざるを得ないから、こうなってきた

るのではないですか、などと頭の中を駆け回る文句は口にしません。そしてその後に、「でも、私にはそんなふうには思えない」「あなたは今現場のリーダーが勤まる人だ。私の会社に必要の人です」と言ってくれるのでした。私は半分ピントが合わないまま、「そうまでおっしゃられるなら、私のことはあなたにお任せしましょう」と返事をします。二度会っただけなのに、こんな殺し文句を出せるなんて、言われた私の気持ちを想像してみてください。相手は年下ですよ。就職面接を逆さに設定するとこんなことになるかも知れないが、それにしても任侠映画にだってこんな場面はなかなか出てこないでしょう。ともかく、私はほくほくとした気分、この人物の描いてくれる異動シナリオに乗せてもらうことになりました。現役時代にだって、こんなふうには持ちかけられ

る異動はなしはなかったし、前月までの雇い主たちのぶざまな撤退騒動とくらべれば、先をあきらめないでいてよかったわけです。八

年間、夜ごと夜ごとに費やしたものは、あの営業課長の、上に弱く下に強い処世により無にされてしまいました。思わぬところから新しい福音がきこえてくる。これこそ人生のよろこびでしょう。同時に、新会社の彼に教わったことは、「役人たちは、顔と腹の中とはまるで違うのです」「彼らと自分を同格と認めてはいけません。こちららは身分が下の扱いなのです」「距離をおいてやってください」「上申など無用」。いずれもその通りながら、七十歳過ぎのひよつとこ老人にはなかなか難しい課題でした。でも、遅まきながらも、これと折り合いをつけていかないと、まだこの先があるつもりなのです。から、自分の動き方が苦しくなります。せつせと努めていかななくてはなりません。

私にとつての「公園さいご」の数週は、まわりの同情ぶうの眼差しとは反し、「仏縁果てなば、いつでもこの地から出る」という昔の仏教者たちのそれに近いものでした。(エヘン)そして勤務さいごの

日。言葉どおり、足の砂を払って、挨拶もせず、歩きに歩き回った公園をあとにしました。

《報告 四》さて、そうして始まった新警備。またまた大へま・小へま、いろいろと起こすのですが、それが、不思議と「導きの彼」に救われることになるのです。さらにこの夏からは、重要な顧客の警備メンバーに加えてくれることになりました。これまた私の気分としては出世ですよ。大したことはない老人街道を進んでいとは思いますが、着実に誰かに相手にされているという実感さえあれば、身体が動くものです。組織のマネジメントだ、N国の経営だと不相応にふんぞり返ろうとした過去の自分。それだって、いざ老人になれば、こうしたささやかな居場所ひとつを持つことにまざるよろこびはありません。ここから仕事を始めなくては。私はこれから「日本一のささやか警備員」になりますよ。(おや、またリキンじゃった)では、失礼します。関田監督。

×

×

×

民族対立は音楽で 和解できるか？

「クレッシェンド・音楽の架け橋」

片桐 公男

が和解を模索していきませんが……。

指揮者のエドゥアルト・スボルクは、深刻な対立が続くパレスチナとイスラエルの若者たちでオーケストラを編成し、平和を祈念するコンサートを開くというプロジェクトの打診に最初は躊躇しますが、結局引き受けることになりました。

バイオリンのレイラとクラリネットのオマルは、テルアビブで行われるオーディションを受けるために家族や周囲の反対を押し切りヨルダン川西岸地区から検問所を通ってイスラエル側へ行くところから映画は始まります。厳しい検問所兵士とのやりとりの場面を通じて両国の対立の根深さが見る者に伝わります。

オーディションを経て、20人以上の若者たちが選ばれ室内オーケストラが結成されますが、彼らはパレスチナとイスラエル陣営に分かれて憎悪をむき出しにぶつけない、衝突を繰り返します。

スボルクはそんな彼らを、南チロル（イタリア）での21日間の合宿に連れ出します。若者たちはぶつかり合いながらも、演奏と話し合いを繰り返し少しずつ歩み寄り、互いを理解し心の壁を溶かしてゆ

きます。最初は息の合わなかった演奏もスボルクの「相手の音を聞き、目を見て演奏しなさい」との指摘を受け次第に息の合う音に近づいていきます。

そんな中、ヨルダン川西岸地区からやってきたパレスチナ人のオマルとイスラエル人のシーラは対立を超えて互いに惹かれ合っています。そして結婚を約束しコンサート前日フランスへ逃げることを実行します。

イスラエルとパレスチナ問題、解決の糸口さえ見えない非常に重い題材を取り上げた映画ですが、南チロルの険しい山々と周囲の美しい草原の景色、加えてバッハ、ブラームス、ドボルザーク、ヴィバルディなどの名曲が随所に組み込まれ、そのハーモニーの美しさは見る者の心を癒してくれます。

指揮者スボルクを演じたペーター・シモニエックが練習の合間に若者たちの前で「自分の父は収容所の医師でユダヤ人殺害に関わり、その息子として一生罪を背負って生きてきた」と語り掛ける場面など、その好演がとても光り、良い映画に仕上がりに印象に残りました。

また、クラリネットのオマルと

同じ楽器を65年間吹いてきたこと、ドイツ語会話が趣味の一つである私にとって、英語に混じりドイツ語で語られる部分があり、字幕を見ずに内容が伝わり、その点でも楽しめる映画でした。反面、クラシック音楽に興味を持たない方々にとってはどうかかな？と感じる点もありました。

クレッシェンドとは、「だんだん強く」という音楽の強弱記号ですが、なぜ映画の題名になったのか？見る前には疑問に感じていましたが、ラストシーンで演奏されたラベル作曲の「ボレロ」、バイオリンのロンが弾き始めたソロに一人、二人と加わり、やがて楽員全員が演奏に加わり大きなうねりとなっていく場面を見て「なるほど」と納得できました。しかし、最後の曲は「ボレロ」ではなくベートーヴェンの交響曲第九番「合唱付」の方がこの映画に適していたのではないかと考えました。何故か？「第九」の歌詞の一節に「時の流れが厳しく分裂させたものを、すべての人々は兄弟となる」との一節があります。世界平和をうたった部分です。「第九」が作曲されたのは1824年、いまから約200年前になりますが、いまだに世

界では紛争・戦争が絶えません。ベートーヴェンが「第九」に込めたように平和な世界を実現したいものです。

終わりに、この原稿を書いている最中にもウクライナへのロシア侵攻が伝えられ罪のない子ども、女性、老人、そして若者が犠牲になっっています。

私は4歳5カ月で東京大空襲を体験し、燃えさかる火の海の中を逃げ回り九死に一生を得た一人として「戦争は二度とごめん」と脳裏に焼き付け生きてきました。80歳を超えた私に残された人生は残り僅かですが「反戦平和」を心に刻み、命ある限り演奏で、文章で表現し、そして行動してゆきたいと願っています。NEIN KRIEG ICH LIEBE FRIEDEN (戦争反対平和を愛す)

以上

×

×

×

それでも、ロシアを嫌い になれない

堀江広子

トルストイの「戦争と平和」でロシアを知る

高校一年の時、国語の教科書にトルストイの「戦争と平和」から抜粋した文章に触れたのが、ロシアを知った最初である。1812年ナポレオン率いるフランス軍のロシア侵攻で、主人公の一人であるアンドレイが負傷したときに、ナポレオンが家来を引き連れアンドレイらを捕虜にするくだりだったと思う。もちろん小説なのだが、史実を巧みに取り入れながら書かれたものである。アンドレイが負

傷し動けない体で、馬にまたがるナポレオンを見上げたときに感じたことは、無限に広がる真つ青な空と、英雄としてあがめられているナポレオンの姿との対比であり、戦いの虚しさや英雄の卑しさであった。

筆者が戦争の愚かさを初めて感じた時でもある。現実にはベトナム戦争が激化し始める頃であった。結果的にフランス軍は撤退することになるのだが、1812年のこのロシアの戦勝を祝して依頼され、気の進まないままに作曲したと言われているチャイコフスキーの「1812年」という曲である。

この曲のことは、近年知ることになるのだが、私の中のロシアは15歳から始まり、今も私に影響を与え続けている。「イワンの馬鹿」も読み、トルストイを尊敬する気持ちが芽生えた。ただ、ドストエフスキーの文学には自分には難しすぎて読みこなせず、もつと頑張つて読めば良かったと悔いが残る。そして、19歳頃に、リュドミラ・サベリリウワという新星の女優がヒロインを演じた「戦争と平和」を観た。この女優さんは確かイタリア映画「ひまわり」でマルチェロ・マストロヤンニの命を救った

ロシア人妻を演じていたと思う。脱線するが、イタリアで夫の帰りをひたすら待つ妻ソフィア・ローレンの悲嘆に涙したものだ。

映画の「戦争と平和」は、ため息の出るようなリュドミラの華奢な首筋の美しさに目を奪われたものの、内容的に強く印象に残るものではなかった。

最も好きな監督 アンドレイ・タルコフスキーの映画に出会う

現在のロシアを見るのはとても悲しく、やりきれない気持ちである。それでもロシアを嫌いにならないのは、これまで観てきた様々な国の映画の中で、最も好きだなと感じたのが「ストーリー」というロシアのアンドレイ・タルコフスキー監督の映画だから。この映画を観た頃の筆者は、二十代半ば過ぎで仕事はしていたが、将来の自分に不安が募り、父母も友人もそばにいたのに、寂寥感に苛まれていた。そんなときに出会ったのが「ストーリー」である。SF映画というジャンルで語られていたが、内容もあるような無いようなストーリーを話せと言われても、水が流れるトンネルに主人公が導

かれて行つてとしか記憶がおぼろげなのだが、登場人物のセリフの一言一句に共感し、心が揺さぶられたことだけを覚えていて。残念なことタルコフスキーの他の映画を観る機会は二度と訪れなかったが。島国の地方都市で人生の道に迷っているひとりの女の心に深く寄り添ってくれた唯一の映画である。そのときに受けた感覚は生涯忘れられない。

忘れることが出来ないロシア映画がもう一本。ソ連邦だった1925年に製作されたセルゲイ・M・エイゼンシュテイン監督のサイレント映画「戦艦ポチョムキン」も同じ頃観た。オデッサの階段を赤ん坊を乗せた乳母車が転がっていく有名なシーンはその後、他の映画でも多く取り入れられている。オデッサというのは町の名前で、

島流しの学者と漁師

「茲山魚譜 チヤサンオボ」

(監督IIイ・ジュニク)

韓国映画。19世紀初頭、キリスト教を信奉し異教徒として島流しにされた学者と島の漁師の話。学者は魚類に詳しい漁師から海洋生物のことを教えてもらい本にまとめ、その代わりに漁師は学者から

現在のウクライナに存在する。港に続く長く巨大な階段は、下から見ると踊り場が見えないという。サイレントなのに、登場人物たちの肉声が聞こえるようであった。

芸術・芸能に励まされて

40代に入り、子育てと仕事にわき目もふらず集中していた頃、チヤイコフスキーの音楽に出会い、ずいぶん心が慰められた。聴くのはもっぱら車を運転しているときで、カセットに吹き込んで聴いていた。歴史も分からず、とにかく「1812年」を聴くと気持ちが前向きになったことを覚えている。「白鳥の湖」や「くるみ割り人形」も抒情的でロマンチックで現実の忙しさや苦勞も忘れて、気持ちがいとおむひと時を作ってくれて感謝し

学問を授かる。2人の良好な関係が続いていく。学者は観念の世界より実学を重んじる。皇帝の治める世の中に否定的である。これに対して漁師は皇帝の下で働いてこそ民を救えんと考えている。考え方に相違のある二人は袂を分かち、漁師は試験に合格して出世するが、腐った官吏の世界に失望して島に帰ってくる。なぜ学者が学問の世

ている。

余談であるが、その時の筆者には、歌詞のついた歌にはない想像と妄想の音楽の世界が必要だったのだ。ショパンに涙し、モーツァルトは流行歌のように楽しく、サティに痺れ、ビバルディの「四季」の中の『冬』に感動した。何といつても最も好きなのがサラサテの「ツイゴイネルワイゼン」で、今も日課のウォーキング中に聴く音楽のクラシック部門でしょっちゅう聴いている。もちろん歌謡曲や、フォークソング、ジャズ、アメリカやイギリスのポップス、K-POPも。

美術の世界では、ワシリー・カンディンスキーの抽象画にも惹かれたが、具象画の「馬上の二人」はずっと見ていたいぐらい好きだ。こうして振り返ってみると、芸

界に生きようになつたのかを理解するのだが、学者はすでに病死していた。

全編モノクロ画面。終盤、鳥が飛び立つシーンのみ鳥に青い色をつけていた。黒澤明の「天国と地獄」で、モノクロの画面に突如煙突の煙に赤い色を付けていたの思い出した。このときは誘拐犯の要求を呑む意思表示の場面だった。

術、芸能に心惹かれたり励まされたりして何とか生きてこられたのだなと思う。

ロシアの人々よ目覚めて!! 殺さないで!!

ロシアも、フランスによつて理不尽に侵攻された歴史がある。だからといって、21世紀にもなつて、偽情報で統制して自国民を騙し、他国に攻め入り殺戮を犯しているはずはない。テクノロジーは無限に進化しても、人間の情緒が必ずしも進化するわけではないのだなと感じるこの頃である。

ロシアのプーチン政権の醜く残酷な暴走が、他の国々の独裁的な政治家を刺激して暴挙に出なければいいのだが。どうか人々を殺さないで!!

そして最後に島の全景を映し出し、モノクロからカラーとなつて映画は終わる。

イ・ジュニク監督は以前「金子文子と朴烈」を撮った。戦前の日本で差別に反対した日本人女性とその恋人を描いた映画だ。彼女は最期獄死してしまうが、官憲による殺害を暗示していた。

(流漂介)

特集

コロナ禍のなかで 3

少林寺拳法シニア流山健康クラブ

「老いるということ」

石井宏明

私は昨年ぐらいから、如実に我が身の老いを感じるようになった。最もショックだったのは、ペトボトルの蓋が自力で開けられなくなったことである。重い物も持てなくなった。

明らかに筋力が衰えているのである。

耳も遠くなった。

依然是難なく自転車に登り切つ

た坂も下りて歩かねばならない体たらくである。自転車に乗っても時にバランスを崩し、転倒する始末である。

夜も頻繁に小用に起きる。

昼間も眠く、映画館で眠ってしまうことも多くなった。

肉体的だけではなく、精神的にも同様である。

まず物忘れが極端に多くなった。

人の名前が思い出せない。聞いても直ぐに忘れてしまう。

知人と会話しても、相手が私の名前を憶えているのに、相手の名前がどうしても出てこない。この

もどかしさを何と表現したらいいのだろうか？

玄関の鍵をかけ忘れて外出し、帰宅して初めて気付いたことも一度や二度ではない。

救いは、もし空巣が入っても、

目ぼしい物がないことである。

老化とは今までできていたことができなくなることであると痛感している。

巷間よく言われるところのフレイル症候群である。

昨年の総務省の発表によれば、65歳以上の高齢者の総人口に占める割合は約30%、3人に1人が高齢者であるという。

「村の渡し」の船頭さんは今年60のおじいさん……という童謡があるが、現代で60歳を「おじいさん」と自他共に認めている人は何人いるだろうか？

まだ60歳は働き盛りと言える。

私は70歳になって初めて老人と呼べるのではないかと思っている。

この秋私は満83歳になる。歴とした老人である。

電車に乗れば必ずと言っていいほど席を譲られる。

かつては席を譲られても素直に従えず、「いえ次で降りますから」などと格好つけて、降りなくても

よい駅で降りたこともあった。今は有難くその好意を受けている。

人と出会うことも相手の態度やこ

とばの端々から労りを肌で感じて

いる昨今である。

さて映画も最近では老人を主人公にしたものが多くなった。順不同

で昨年から私が観た映画を挙げてみると、「痛くない死に方」「椿の庭」「グランパ・ウォーズ」「フ

ーザー」「いのちの停車場」「やすらぎの森」「Arcアーク」「スー

パーノヴァ」「83歳のやさしいスパイ」「お終活」「スズさん」などな

ど……

邦画洋画を問わず、老いとその

延長線上にある死についての映画がとりわけ多かった。

老いは必然的に死と繋がっている。そこで先に挙げた映画の中

でも直接死を想起させる「痛くない死に方」について述べてみたい。

監督はかつてピンク映画で名を馳せた高橋伴明。

主演は名脇役柄本明の息子柄本佑。

脇を固めるのは奥田瑛二、坂井真紀、大谷直子、宇崎童童、余貴

美子という錚々たる顔触れである。まず冒頭に下元史朗演ずる末期

のがん患者がベッドの上でのうちまわるシーンが描き出される。

死を目前にしたすさまじい断末魔の悶えは、タイトルとは裏腹に

見るからに痛々しい。

この映画は在宅医と患者、そして家族の物語でもある。

主演の在宅医河田を柄本佑が演ずる。

末期の肺がん患者の父を痛みを伴う延命治療から解放したいと自

宅で痛くない死に方を選択した娘智美は坂井真紀である。期待した

在宅医（柄本佑）の治療も空しく、結局彼女は痛い死を父に課してし

まう。父の死後智美が河田に「私の心が痛いんです。」と言う。

「少林寺拳法シニア流山健康クラブ」（代表者＝石井宏明）は、一般財団法人少林寺拳法連盟の管轄下にあり、少林寺拳法の技法のエッセンスを取り入れた手軽な運動により、健康増進を目的として活動しています。流山市立常盤松中学校・武道場で週2回（火曜・木曜、夜7時から1時間半）、流山市コミュニティプラザで週1回（金曜、朝10時から1時間半）練習しています。

河田は自分の無力と悔恨に苛まれ、在宅医の先輩長野(奥田瑛二)に相談する。そして彼から「病院からのカルテではなく本人を診ろ」と助言される。

2年後河田は末期の肝臓がん患者本田(宇崎竜童)を担当することになる。

宇崎竜童は一流のミュージシャンであるが、この映画で演技者としても一流であることが証明されたと思う。

末期がん患者でありながら、軽妙な川柳で思いを伝える中にユーモアとそこはかかないペーソスが漂い、余人には代え難い味があった。

本田が病床で託した川柳をいくつか紹介すると

「散り際を打ち上げ花火に教えられ」

「良い数値出るまで測る血圧計」

「救急車在宅看取り夢と消す」

「痛みなく悔いなき最後平穏死」

「強がるも拭いきれない死の恐怖」

本田の妻しづれ(大谷直子)が、本田がいよいよ終末期を迎える時台所に駆け込み、泣きながら洗い物を始める場面は現実味があった。これは大谷直子のアドリブだとい

う。

また存在感のある脇役女優として知られる余貴美子の訪問看護師役の抑えた演技も光っていた。

最後に大工であった本田が法被姿の死に装束で大工仲間の男衆の木遣り歌に送られる葬儀のシーンは暗くなりがちな葬儀のイメージを払拭した名場面であった。

私事であるが今年3月のある朝、私は目まいで起き上がることができず、這うか壁につかまりながらの移動を余儀なくさせられ、丸2日間寝込んでしまった。

その折このまま逝ってしまったら、遺された者はさぞ困るだろう?と初めて真剣に死を考えた。

そこでエンディングノートを書くことを思い立ち、必要最小限のことを書き記すことにした。

例えば葬儀は家族葬か一般葬か、死亡を知らせてほしい友人、知人の連絡先、そして家の権利書などの保管場所等等。

書き終わった後、自分の死に方を模索してみた。

古今多くの天才は夭折し、美人薄命とも言うが、私はできるだけ長生きしたいし、まして自死は論外である。

また突然死は避けたいし、事故

死も嫌だ。

理想としては、身体の機能全てを使い果たし、近親者の見守る中で、穏やかに息を引き取ることにしくはないが、とかく人生は思い通りにいかないものである。

せめて天命に従うままに、日々悔いなく、できれば残りの人生を全うして痛くない死に方をしたいというのが、今の私のささやかな願いである。

コロナ禍の過ごし方

土田博志

今年のゴールデンウィークは、以前と比べるとコロナウィルスに対する治療法、有効薬やワクチン接種が進み、感染者の減少傾向も見られ国や県は、何の行動制限も出しませんでした。

旅行、帰省、ドライブなど出掛ける人も多く、各地で催物が行なわれ徐々にケとハレが戻ってきた感じですよ。

私は、コロナ禍で、もやもやうつうつしい気分がありましたので、気分転換として3つの事を行っていました。

一、とにかく体を動かす事

二、アクション映画を見る事

三、カリッと焼けた熱熱のギョウザと冷えたビールで晩酌する事以上の3つで、心と体をリセットしていました。

アクション映画も、たくさんありますが好きなトム・クルーズ主演の「ミッシェン・インボッスブル」です。

シリーズ化され、数数のアクションはハラハラ・ドキドキで盛り沢山です。

「ローグ・ネイション」では、離陸する輸送機の機外につかまり風圧に耐え、機内に入り込み積荷と共にパラシュート脱出と息つく隙がありませんし、様々な危険となり合わせです。

鉄柱に、後ろ手に手錠をつながれた状態で全身の筋肉をフルスロットルにして、ぬけ出すシーンは身体能力の高さが見られます。

格闘も、動きが軽快で次ぎ次ぎと相手を制圧していくのは、スカッとしカメラアングルも素晴らしいと感じました。

トム・クルーズは、現在60才ですが年齢を重ねると、体の動きも緩慢になりがちですがみじんも感じませんでした。

又、昔は映画の中でタバコを吸う場面が有りましたが、今は健康のため喫煙シーンは少なくなり、社会的影響が大きいからかもしれない。

西部劇で、ガンマンがマッチをブーツに擦り付けて、火を着けるのがカッコよく映り家のマッチで試みたが火はつかず何本も軸を折りダメにして、親に怒られた思い出があります。それにしてもマッチを最近では、見かけなくなり何かさびしさを感じます。

タバコの先端の火は約600度、マッチは約1000度以上の高温です。

令和3年の総火災件数は、35077件で1日あたり96件、15分ごとに火災が発生しています。

建物火災で、タバコによる出火原因が多いようです。(令和3年消防統計)

寝タバコ、消し忘れ等ちょっとした油断で、大切な財産が消失してしまうので注意が必要です。

最後に、トップガンの続編が製作されましたが、ケニー・ロギンスの「デンジャー・ゾーン」を聞くと鼓舞してきます。

そして、今後も新たに作られる映画、まだ見ていない映画、もう一度見てみたい映画など時間の許す限り映画鑑賞をして行きたい夢があり、一時の幸福の一杯が飲めるためにも、少林寺健康クラブで体を動かし老化防止に努めていく。

『雨に唄えば』

(原題: Singin' in the Rain)

大築 猛

舞台は1920年代のサイレント映画(無声映画)末期からトーキー映画(発声映画)に移行し始めたハリウッド。サイレント映画全盛の時代、俳優ドン(ジーン・ケリー)と大女優リナ(ジーン・ヘイゲン)はドル箱の映画スターであり、大スター同士のカップルとしてはやられていた。これは、話題作りのために会社が出したものでした。実際は、リナが一方的にドンに惚れているだけであり、ドンに至っては我儘で高飛車なりな恋愛を尽かしていたのです。リナの強引な求愛に閉口するドン

を、下積み時代を共にした親友コズモ(ドナルド・オコナー)がいとも陽気に励ますのだった。

そんな中、ある夜、ドンとリナはパーティに向かう途中で、フアンに囲まれてしまい、逃げ出したドンは見知らぬ女性の車に飛び乗りました。運転していたのは、駆け出しの新人女優キャシー(デビー・レイノルズ)でした。舞台女優を目指しているというキャシー。大スターのドンにも強気に接するキャシーに、ドンは今までにないときめきを覚え、彼女に強く惹かれていきます。

その頃ハリウッドでは、世界初のトーキー映画「ジャズ・シンガー」の成功を機にトーキーの波が押し寄せていました。

焦った社長のシン普森(ミラード・ミッチェル)の意向で、制作中のドンとリナの新作映画も急遽トーキーに変更されることとなった。その撮影の最中、ドンは同じ撮影所で端役を演じていたキャシーと再会します。ドンは歌も踊りも上手い新人女優キャシーと恋に落ちます。

その後、ドンとリナの新作がト

ーキーで製作されることになりましたが、音声が不安定な上に、リナの致命的な金切り声と下手な演技ばかりが目立ち、披露試写会の評価は惨憺たる結果に終わってしまいます。本格公開まであと三か月。俳優生命も終わりと嘆くドンを救ったのは、キャシーとコズモのアイディアで、作品をドンの得意な歌と踊りを生かしたミュージカル映画に作り直し、リナの声はキャシーの声を吹き替えようというものだった。ミュージカルに作り変えるアイディアを思いついたドン、コズモ、キャシーが、替え歌「グッド・モーニング Good Morning」でキャシーをセンターにして、階段やバーカウンター、レインコートやソファなどを巧みに使い、三人で歌うタップダンスのシーンは華麗な動きと豪快さは、これまた見応えがあります。やがて、練習を終え、キャシーを家まで送り、ドアの前でお休みのキスの後、土砂降りの雨の中で、

♪ I'm singing in the rain
Just singing in the rain
What a glorious feeling!

I'm happy again
I'm laughing at clouds
So dark up above

The sun's in my heart
And I'm ready for love ♪・・・

「Singin' in the Rain」を歌いながら、リズム良くタップダンスを踊り、恋する喜びを表現する4分間のシーンは、非常に印象的で映画史に残る名場面として語り継がれています。ジーン・ケリーは歌もとても上手でし、やはり天才的な俳優だと思います

三人の奇抜な演出とドン・華麗なパフォーマンス、そしてキャシーの美しい歌声により、傑作ミュージカル映画へと生まれ変わります。キャシーの本格的なデビューも決まり、後は封切りを待つのみと思われたのですが、吹き替えのことを知ったリナが現場へ怒鳴り込みます。そして、契約違反という名目で社長を脅迫して、キャシーを自分の専任吹替にしてみさせて、表舞台へ出られないように仕組もうとします。映画の完成試写会で、ドンとリナのパフォーマンスは拍手喝采を受けます。調子に乗ったリナが自らステージ上でスピーチを行ったとき、スクリーン

の声と違うことを観客に怪しまれ、そして、観客から生で歌うように迫られます。そこで、ドンと社長

は生意気なリナを陥れようとすることを思いつくのです。やがて、リナに歌っているフリをさせます。そして、カーテンを開けると、な

んと、背後で歌うキャシーの姿が現れ、観客は大爆笑します。キャシーが吹き替えで歌っていることがバレてしまい、リナの実態が白日の下に晒されてしまうのです。その後、ここぞとばかりにドンがキャシーを宣伝し、キャシーが涙するシーンは感動的でした。売れない中、頑張っていたキャシーでしたが、憧れの人に自分を宣伝してもらえて、スターの仲間入りを果たし、真のビッグカップルとなります。

この映画は、今から70年ほど前の1952年のアメリカ映画です。日本での公開は1年後の1953年。監督はスタンリー・ドーネンと、主演も務めたジーン・ケリー。コメディ調のミュージカル映画の金字塔として名高い作品で、世界中で数多く舞台化されています。そして、映画の中の場面、場面に1920年代の古き良きアメリカが登場していることも見逃せ

ません。好きな映画の10本に入っています。

最後に、『雨に唄えば』（原題：

Singin' in the Rain）（*1）『雨にぬれても』（原題：Raindrops Keep Fallin' On My Head）の中の2曲は、

今なおデパートでお客様に雨が降り出したお知らせ音楽として、そして、雨が止んだら、（*2）『虹の彼方に』（原題：Over the Rainbow）が使われています。これらの音楽を耳にする機会があると、感動した映画のシーンが蘇ってきて心地よい気分になります。

（*1）1969年公開の西部劇『明日に向かって撃て！』の挿入歌で、ポール・ニューマンとキャサリン・ロスが自転車に乗ってデートするシーンに使われました。（*2）1939年のミュージカル映画『オズの魔法使い』で、ジュディ・ガーランドが歌った劇中歌。

以上

×

×

×

「前向きに生きる事」

田中 稔

映画に関するシネマ気球なのですが、自宅で過ごす時間の長くなった小生、もっぱらテレビ（BS、CS）で放映される映画等が楽しみとなっている。最近では、007、寅さんシリーズを始めとし、スタートレック、踊る大捜査線、等契約料として多少の料金は支払う必要があるのだが、映画の種類も目白押しなのが嬉しい。これからも様々なジャンルの映画が予定されている。そんな訳で、映画談義は先輩諸氏にお譲りし、思うところを思うがままに書いてみました。

後ろ向きに生きる事、前向きに生きる事とは？自分の人生を振り返り、失敗した事や人に迷惑をかけてしまった事など、誰にでもある過去の苦い経験は、いくら悔やんでも今となつては変えられない。だから忘却の彼方へ追いやるしかありません。

ワスレテシマエ？です。これが

なかなかできそうで出来ない、凡人たる所以でしょう。人生の過ぎてしまった時間より、これから先の未来の時間のほうが圧倒的に短い私は、(長い人もいるかもしれないが)なおさらあの時こうしていればと失敗や後悔、反省の件数が多いのはしかたの無い事です。しかしその中から将来に向けての対策や、注意点を前向きに生きる事の糧に出来れば、この先良い人生があるだろうし、失敗も減ると思われます。

今、これから始まる人生の時間は、前向きに生きる事に開かれた時間です。これは誰でも同じで一人一人自由なはずです。人生はその長さではないと、考えた時期もありましたが、人の助けを借りずに、少しでも長い人生を楽しく共に生きたいと願うのは、小生だけではないと思います。

×

×

×

今さらですがホームシアターみたいなのを

柳橋和郎

今さらですがホームシアターみたいなのを作りました。今まで計画みたいなのはたてましたが、計画を楽しみただけでした。今回は突然バイト先のスタッフが怪我し代わりに仕事をしたため臨時収入があり使うことにしました。人の不幸にかこつけホームシアターを作ることが出来ました。

ホームシアターとは

ホームシアターは、家庭に大画面テレビやマルチチャンネルスピーカーなどを設置し、まるで小型の映画館であるかのように設備を組むことである。なお、日本では富士通ゼネラルが1963年から「ホームシアター」を商標登録していたが、1999年に無償開放した。(ウィキペディアより)

ということですが

ホームシアターにする部屋は6

畳です。ただ和室なのでシアターむきとは言えないしやや狭く感じます。この部屋をお気に入りホームシアターにすることにしました。始めにプロジェクターにするか、テレビにするか決めなければなりません。映画館の雰囲気はプロジェクターにスクリーンのほうが有ります。但しテレビのほうがいろいろ機能が多くどちらにするか迷いますが4Kテレビにすることにしました。プロジェクターで見る映画はテレビとは違う良さがあって捨てるのがたいていですが4K放送を見たりWIFIに繋いでNetflix, Amazon prime videoを見たりAbemaTVを見たりYouTubeを見たりするにはテレビのほうが簡単そうです。今テレビの大きさは6畳だと最低で50インチが推奨されています。ホームシアターです。最近のリビングに65インチとか大きな画面のテレビを置いている家も多いと思います。もう誰でもホームシアターの時代になってきています。なので今さら、ホームシアターと言うのもそれも50インチでという感じです。

テレビの選択

テレビは基本国内メーカーから選ぶことにし6畳の部屋に推奨されている最低の大きさ50インチを中心に店で何回か見ました。6畳には最高で何インチまでという案内はなくどこまで大きくして良いか悩みます。店で見てみると50インチは少し小さいかなという感じがしてきて大きくなりすぎた感じが家と違い店では小さく見えるはずなので、失敗しないように50インチにしました。そして今回テレビを探してみても55インチを中心には大きい、小さいと言えるのではないかと感じました。予算ですが50インチだと有機ならスタンダードクラスが、液晶なら最上位機種が買え、液晶ならサウンドが擬似ですが7・1チャンネルがすぐに楽しめる機種も候補になり1番手っ取り早いのですがオーディオ用に買ったAVアンプを持っているので活かしてみようと思い、小型スピーカーも2組み使っていないのがあり、これにサブウーファースとセンタースピーカーを増やせば5・1CHサウンドシステムが構成できます。さらに前面の天井

に2台スピーカーを増やせば7・1チャンネルに発展させることもできます。そんなことでテレビのグレードはスタンダードとし差額をスピーカーを増やしたりテレビ台、そしてソファァーに回すことにしました。

テレビの価格

テレビの価格参考のため価格COMで買うまでチェックしましたが、結構株のように上がったり下がったりします。ねらっていたTVが値上がりすると買う気がしなくなってしまう。ネット販売中心の安い店で買うか、やや高い大手チェーン店で買うかですが、タイミング良いと大手チェーン店が安い時もあります。あとメーカー直もありですが通常は少し高くなります。たまたま自分はメーカー直になりました。タイミング良く期間限定のセールがあり、候補の機種が安くなりさらに5000円のクーポンを持っていて安く買えました。今は30000円ぐらい上がっています。これは嬉しい気分になります。

5・1CHってなに？

お馴染みのステレオは左右1本1

本のスピーカーで聞きますがそこに低音を増幅するサブウーファァーを1本追加、これを追加すると映画の迫力が格段に増します。

真ん中に置くセンタースピーカー、この役目は会話を自然に聞かせてくれます。(映画館ではスクリーンの後ろにスピーカーが置いてあり、スクリーンには音を通す小さな穴が開いていて、会話が口から出ているように違和感がでないようにしています)映画館のように画面が大きいとスピーカーの位置により会話が不自然に聞こえるようです。ホームシアターは小さいのでそこまで違和感はありませんがセンタースピーカーはあったほうがより自然になると使ってみて実感しました。そして自分の後方に2台、サラウンドスピーカーと言い、後ろから音が出ることににより臨場感が増しますが、どちらかというとわざとらしい迫力が増します。全部で6個のスピーカーですが、サブウーファァーだけ別に表示して5・1CHと言います。サブウーファァーを2本にすることもでき5・2CHとなります。これに正面上に2台スピーカーを増やすと空間の音が出ます。前後左右に上下が加わり7・1CHとなります。

す。自分のAVアンプには7・2CHまでのスピーカーの端子がついています。

設定

最初所定の端子にスピーカーを6個繋ぎ音を出してみましたが前の2本のスピーカーからしか音が出ませんでした。繋いだだけでは音は出ず設定しないと駄目でした。設定はどこにスピーカーを置いたかアンプが画面上で聞いてくれるので選択します。アンプ専用の集音マイクで音をはかると1番バランスの良い音を出すようになります。DVD等で映画を見る場合DVD等のほうからアンプに音を送りますが、この場合テレビの音をAVアンプに送る必要があります。昔はHDMIが一方通行しか使えず光ケーブルやRCA端子で音声を送りましたが、今は複線となりテレビの音をHDMIでアンプに送ることができるようになりました。光よりさらに高音質で送れます。これもやはり繋いだけでは駄目で今度はテレビの方で設定しないといけません。そしてテレビの設定はスマートフォンがあるとやりやすいのを知りました。これはメーカーにより違いがある

とは思いますが。テレビにしろアンプにしろ細かい設定は昔は無かったのですが今は設定がいろいろあり、やらないとテレビも見ることができないです。設定が済5・1CHで見ることができるようになりそしてわかったのはブルーレイやDVDの映画は昔買った物もほとんど5・1CHで見ることができるようになっていました。目的がないと気がつかないもんです。ネットで見る映画もそして4Kの放送も5・1CHでやっています。

早速5・1CHを試し、見た中でミッシェンインポツブルが音楽と効果音が良かったです。画面との相乗効果が出ていました。アマゾンで見た007より良かったです。映画ではありませんがミィシャの星空のライブ、今までは小さな画面でステレオで見えていたが5・1CHと大きな画面で見るとミィシャのボーカルがより綺麗に聞こえ、バンドの楽器の音の分離がよくなり迫力が数段増し楽しい事ができました。

本末転倒ですが、しばらくの間5・1CH効果が高い映画ばかり見たくなりそうです。

OUTSIDERの映画事情

門屋大ニ

人間とCORONA-VIRUSの一進一退の攻防が続くVIRUSが優勢かとも思える時期を経て次第に感染の波が小さくなりや々と日常を取り戻しつつある様に見える。COVID19対策で鬱陶しい諸制約・自粛が続くなか漸く感染症が去った世の中を思い浮かべることが出来る昨今である。一方では有無を言わせぬ力任せのロシアによるウクライナ進攻が世界を驚かせ人が人を殺し合う戦争犯罪とも言える殺伐とした光景が日々報道され続けている。約2000年前司馬遷が「史記」を著述しつつ問い続けた疑問「天道はか非か」は現代においても直視して問い続けなければならぬ問題であろうか。人類は進歩しているのか退歩しているのか。素朴な疑問に否応なく向き合わされる昨今人間の不条理を思うにつけ「史記」を想起する所以である。この時期に日常の喧騒を忘れ静か

に我に返り「映画」を考える時間を持つと言う事は非常に貴重に思われる。映画OUTSIDERであることを自覚しつつもここ数年のシネマ気球への投稿を通じて映画の「働き」・映画界の「情報」にも関心を持つ様になって来ている。締め切り直前の投稿で彼方此方に不整合があることを何時もの様に懸念しつつ「我が目で観た映画」・我が気掛かりな映画情報「OUTSIDERの映画考」の順で奮勇を振るつての投稿をご容赦方ひたすらお願いするのみ。

①「我が目で観た映画」の記憶
（1）「我が目で観た映画」の記憶
①「ライオン/25年後のたたいま」
主人公サルーはインドの貧困の家に生まれ幼時に迷子になり不審者に追われたり不穏な社会に弄ばれながら幸運にも養子縁組によりオーストラリア人夫妻に育てられることになる。不自由なく成長したが何処かで故郷を懐かしみ続けている。幼時に過ごした生家周辺の故郷の原風景の僅かな記憶をたよりにインターネット技術を駆使しインドの実家を探す決意に至る。蝶が乱舞する森の中・近くに在った鉄道線路・駅舎近くの給水塔の

微かな記憶が頼り。迷子になった経緯を辿る事も。車両に乗って石炭拾いでわずかでも家計の足しに稼ぐため兄とサルーが鉄道で出かける。サルーが睡魔に襲われ待つてると言つてサルーを残して兄が出かける。目が覚めると兄がいない。兄を探すが見当たらず。車両に閉じ込められたまま兄ちゃん母ちゃんと呼びながら鉄道で運ばれてしまう。故郷ネストレイへ帰りたい一心がつのる放浪の旅でカルカッタへ。雑踏に揉まれながら浮浪児のたまり場に迷い込む。諸々の危険を避けて寺院に逃げ込んで飢えを凌いだことも。浮浪児を売買する怪しげな夫婦の家で生活の経験も。危険を察知して逃亡した際浮浪児を保護する任務中の青年に出会う。児童保護施設の計らいで親を探す迷子の写真等を新聞で報道するが応答なし。ここでは養子縁組の世話もしておりオーストラリアで養子を探す夫婦がタスマニアにすることが判明する。養子で引き取られる前にテブルマナー等のレッスンを受けオーストラリアホバーナ空港に向かい育ての親に面会。新しい家庭に馴染んでいく。1年後ヨット遊び・クリケ

ット遊びにも馴染む。20年後サルーが海岸で遊ぶ光景が美しい。2008年メルボルンhospitalityを学ぶ学生仲間のpartyでサルーが幼時を断片的に思い出す。サルーが迷子であったこと・駅のホーム・給水塔・生家のあった町名ガネストレイを思い出す。girl friendルーシーがgoogle earthで検索の手法を示唆する。ルーシーとdate中にも幼時の記憶(故郷・母)が蘇る。実の母と実の兄が毎日この25年サルーを探していると言う思いが募る。幼時スイカを抱えて単車と衝突し額に傷・googleで探索・蝶の乱舞・給水塔・川・ダム・幼時のサルーが走馬灯の様に幼時が蘇る。遂に故郷を見つけて2012年インドカンドウの生家近くに辿り着く。実母と再会を果たす。実兄グドウは他界の由。幼少時のスイカの持ち運びで負った「額の傷」は母子の共通の忘れられない記憶の合致。サルーは自分の本当の名前がシエル(ライオン)であることを知らなかった。シエモラ(実妹)にも会える。育ての親と実の親が会う。鉄路・駅舎近く

特集

コロナ禍のなかで

3

少林寺拳法シニア流山健康クラブ

の高架水槽原風景を確認。実話で綴る望郷編。

② ザ・シークレット・サービス

(In the Line of Fire)

ケネディ大統領暗殺の瞬間、その現場にしながら大統領を守れなかったことを今でも悔やんでいるシークレットサービス・エージェントのホリガン。定年間近となった彼のもとに大統領暗殺を予告する1本の電話が入る。老練なシークレットサービスと大統領暗殺を企む謎の男との対決を描いたサスペンス・アクション。

(2) 我が気掛かりな映画情報

最近Outsiderが見開きした映画界の映画情報に以下の様なものがある。近い将来これら映画を優先して逐次楽しむことにしている。

○「ベイビー・ブローカー」

第75回カンヌ国際映画祭コンペティション部門では枝監督の「ベイビー・ブローカー」で主演したソン・ガンホが最優秀男優賞受賞。親が匿名で預ける「赤ちゃんポスト」から乳幼児を連れ去り、子供を欲しがる夫婦に売って稼ぐ男。古びたクリーニング店を営みながらも借金に追われるサンヒョン(ソン・ガンホ)と、「赤ちゃんポスト」がある施設で働く児童養護

施設出身のドンズ(カン・ドンウオン)。「赤ちゃんポスト」で出会った彼らの、予期せぬ特別な旅がこの物語。

○「PLAN 75」

第75回カンヌ国際映画祭「ある視点」部門のカメラドール(新人監督賞)の次点特別表彰。早川千絵監督。タイトルは「PLAN 75」。少子高齢化が進み75歳以上が自ら生死を選べる制度が導入された、近未来の日本が舞台に翻弄されていく人々を描く。主演の倍賞千恵子が制度を利用すべきか悩む78歳の女性を好演。高齢社会の生と死にどう向き合うか。

○「時代革命」(香港人 周冠威監督)

2019年の香港の反政府運動に密着したドキュメンタリー映画。第75回カンヌ国際映画祭コンペ

部門 最高賞パルムドール賞。ス

エーデンオストランド監督による「トライアングル・オブ・サッドネス」。豪華客船が遭難し無人島に

取り残された乗客と使用人の力関係が逆転する様子を通じ拝金主義の世の中を笑い飛ばす。

○「トップガン マーヴェリック」

「トップガン」はトム・クルーズをスターに押し上げた伝説のスカイ・アクション。これを越える

程の「トップガン マーヴェリック」。必見リストの最上段にある。

○「オフィサー・アンド・スパイ」

冤罪を隠す国家権力の怖さを描く。19世紀末フランスのユダヤ人大尉ドレフュスがスパイ容疑で有罪となる。調査新局長のピカル中佐は別のスパイの調査をするうちドレフュスの冤罪を示す証拠を見つける。旧態依然とした情報局を改革しているうちに事件の真相に徐々に迫る。

○「ドライブ・マイ・カー」

ハリウッドアカデミーの国際長編映画賞を獲得。村上春樹の短編小説が原作で妻の死に向き合う舞台演出家と彼の専属のドライバーとなった女性との交流を描く。カンヌ映画祭で脚本賞を受賞。華やかな受賞歴。

○日本の興行記録を打ち立てたア

ニメ映画「鬼滅の刃」が能楽として上演されると言う。鬼は能楽で

カギとなる存在で鬼がテーマのこの物語は能楽にぴったりと言う。映画が伝統芸能に影響する光景に

○岩波ホール閉館近し

ミニシアターの草分けとして半世紀以上にわたって日本の映画文化を支え独自の存在感を放つてき

た「岩波ホール」が残り2か月で閉館するという。惜しむ声は根強い。必ずや再興あるべし。

(3) Outsiderの映画考

世間は単純でなく不条理が溢れ複雑怪奇な様相を呈しているかに見える。これを読み解くには幅広く読み・聴き・書き・複眼が必須である。映画は複眼で視点を変えて非日常の世界に案内してくれる。この楽しみを追求してみたい。

私たちはフィルタを通して物事を必ずと言っていい程歪めて自己流に認識している様に思う。映画はそれぞれの見方でそれぞれの色で輝いている芸術世界だと思ふ。

フィルタを通して本質を直視する目で素直に映画を観たいもの。映画をみて非日常の世界に身を置くことで感動し認識し多数の可能性を感じる種子を拾う。複眼で容

量無限大の脳細胞に潜在的に記録が残る。何時の日か醸成期間を得てこの種子が発芽し育ち開花し実を結ぶ。この楽しみを加えたい。

歌舞伎用語の「だんまり」は暗闇の中登場人物が無言で双方を探り合う様子で動きを止めた見得の瞬間に思いの動きが生じる点で印象深い。映画と映画を観る者との間のこの様な双方のだんまりにも

似た呼吸も楽しみたいものである。

テレビ「水戸黄門」

杉山昇

第1部のスタートは1969年。43部は2011年12月12日まで、放送回数は1200回を超える。

黄門一行が旅先で出くわした悪人を懲らしめる勧善懲悪の物語と「助さん」「格さん」「うっかり八兵衛」「風車の弥七」「飛猿」等のキャラクターがうけ、1979年2月には平均視聴率43・7%という最高視聴率を記録したという。ところが、その後は視聴率が低迷。第43部も初回10%、第2回も9・6%と苦戦したらしい。

一部では由美かおるが演じた「かげろうお銀」と後継のキャラクターの「疾風お絹」の入浴シーンがなくなったのが原因ではと囁かれているようだ。

ドラマの筋書きはほぼ決まっている。諸国漫遊を楽しむ水戸黄門一行の前にいつもたちはだかる「悪代官に悪徳商人、それが操る

ヤクザ」。これが町民や村民をいたぶる。見かねた黄門様一行が友の忍者三人を使い内情を探り出す。

「お銀」が代官の元へ芸者に化けて寄り添う。時にはお風呂に誘う。これだけの美人に誘われては流石の代官も脇が甘くなり、その気になりお銀の手の平に乗り大事な証書を奪われる。お銀の入浴シーンはまたお色気たっぷり。このようにして手に入れた証拠や証人を連れて代官の元へと乗り込む。

代官に「田舎ジジイが何を小癪な。えらい構わぬ此奴らを皆斬り捨て」代官の命令一下で大勢の部下が襲いかかる。これを助さんと格さんが縦横無尽に薙ぎ倒す。相手が怯みかけた頃合いを見計らい黄門様が「助さん、格さん、もういいでしょう」と促す。そこでは助さん格さんが懐から徐に葵の御門入りの「印籠」を差し出す。「静まれ！ 静まれ！ この印籠が目に入らんか！」差し出された印籠を「悪たち」が見るなり仰天する。すかさず助さんが「ここにおわす御方をどなたと心得る。恐れ多くも先の副將軍水戸光圀公なるぞ！ 頭が高い、控えおろう

」と「」全ての悪が「ははは」とひれ伏す。ここで黄門様が悪代官に吟味する。時には素直に「罪」を認めるものの中にはとぼける代官もいるが、全ての証拠を揃えての尋問である。逃れようはない。

そこで困った農民やら町民が助かる。ここで黄門様が皆に向かい「良かったの」と、喜ぶ人にも送られながら軽快な音楽の元に「助さん、それではまいりましょうか」と次の目的地に向かう。物陰からこの様子をみている忍者の飛猿とお銀が後を守るように出かける――。

物語はワンパターンのようであるが、弱い者は今も昔も強いものには虐められる、それを黄門さんが助ける、最後にはどんなに偉い人でもひれ伏して謝る、痛快至極である、この場面を多くの人は期待しての映画ではないか？ 私も虐められるからこのラストシーンが実に痛快至極である。できればロシアのプーチンやアメリカのバイデンやトランプなども「はは」とひれ伏してほしいものである。ドラマの見どころは旅の先々で名物が紹介される。ああここで

こんなものが作られていたのかと！ 観光名物の足しにもなる。例えば織物にしても訪問地の名産名物が一緒に紹介される。この地でこんなことがあるのかと興味が湧き面白さが倍加される。

博多にきた黄門様は博多織に興味をもつ。先染めの糸を使い、たくさんの細い経糸と数本の糸をまとめ合わせた太い緯糸を強く打ちこんでつくられる絹織物で、ハリとしなやかさを併せ持つ丈夫さが特徴とのこと。黄門様は得意気に説明する。「現在、反物小物などさまざまな製品が作られています。代表的な博多織といえば帯です。これは美しいですよ！」。八兵衛がすかさず「俺にやそれは腹の足しにもなりやしねえや」とちやちやを入れる。

×

×

×

田舎の映画生活5

『ロード・オブ・ザ・リング』 キャストは今？

岩館範子

どいい物件があるはずもなく、新たに建てるとなると土地もお金も必要になってくる。何とかバスで行ける所に移ってくれる事を願っている。

ついにと言うべきか、とうとうと言うべきか、唯一の行ける映画館（フオーラム八戸）が入っているビルが閉館してしまう。

都会なら1つくらい減っても他の映画館に行けばいい。この田舎の、しかも車なしでは、どうにもならない困ってしまうニュースである。

八戸に映画館がないからと、市民が作ったものだそうで、何とか残したいという事だけど、移転などの予定は未定だ。再開発で、ビルはマンションに建てかえられる。シネコンが移転するようならしょう

昨年観たホアキン・フェニックス出演の「ジョーカー」だが、続編が進行中であることが判明。日本語で読むと「フォリアドウ」とタイトルがついているが、感応精神病などと呼ばれる精神障害のひとつで、ある患者が発端となつて、その症状が複数の人々に同一の形であらわれる状態を指す。そのためジョーカーの恋人であるハーレイ・クインが登場するのではと言われている。ホアキン・ジョーカーの恋人!?どんな感じなのか全く想像できない。楽しみ。

その後の最新ニュースでは、なんとハーレイ・クインをレディ・ガガに出演交渉であるところであった。より楽しみにする。ミュージカル映画になるとの情報もある。けどそれは苦手なのでならないことを願う。

1つ知らなかったニュースが。ホアキンは、『ドラゴン・タトゥーの女』のルーニー・マラーと婚約中。第1子、男の子が誕生してい

た。なんと（リヴァー）と名付けたんだって。もちろん1993年に23歳の若さで亡くなった兄リヴァーから取った。

ホアキンが15、16歳の頃、リヴァーが『お前はまた演技をやるんだ。これこそお前がやることなんだから』と言ったそう。頼むのではなくそうしろと。それで演技を続けてきて、素晴らしい人生を送れているから、彼に恩があるそうだ。

『ロード・オブ・ザ・リング』公開から20年。（そんなに!?）キャストの現在はどうなっているのか？年内には、ピーター・ジャクソン監督によつて4Kリマスターされた3部作が、日本で初めてIMAX上映されることが決まっている！観られたらなあ。

イライジャ・ウッド（フロド・バギンズ役）、41歳になった。出演したNetflix映画を製作したデンマーク人のプロデューサーの女性と交際をして、2019年に第1子が誕生している。最近結婚せずに子供をもうけるのが流行っているのかな。近年は、ホラー専門の製作会社を立ち上げて、プロデューサーとしても活躍してい

る。

ショーン・アースティン（サム役）、51歳に。Netflixとドリームワークス・アニメシリーズを務めたり、人気作品『ストレンジャー・シングス 未知の世界』に主要キャラとして出演。若き日のドウェイン・ジョンソンを描く『ヤング・ロック（原題）』のシーズン2など次々ドラマ出演している。

ビリー・ボイド（ピピン役）とドミニク・モナハン（メリー役）。ボイドは53歳。モナハンは45歳に。ボイドは『ホビット』3部作の完結編『ホビット 決戦のゆくえ』のエンディング曲を担当して話題になった。モナハンは『スター・ウォーズ/スカイウォーカーの夜明け』などに出演している。

イアン・マッケラン（ガンダルフ役）、82歳に。『ホビット』3部作でもガンダルフ役を務めた。他に『グッドライアー 偽りのゲーム』や『キャッツ』シエイクスピアの庭『美女と野獣』などに出演。舞台『ハムレット』でも出演を務めた。すごい。まだまだ元気。ヴィゴ・モートンセン（アラゴルン役）、63歳に。『ロード』の後、『イースタン・プロミス』は



『ロード・オブ・ザ・リング』

じまりへの旅』『グリーン・ブック』などに出演。『フォーリング・50年間の想い出』(2020)では、ついに監督デビューを果たす。今後は、タイの洞窟で起きた遭難事故と救出劇を描く、ロン・ハワード監督の『サーティーン・ライヴズ(原題)』やデビッド・クロウネンバーグ監督のホラー『クライムズ・オブ・ザ・フューチャー(原題)』などの公開が控えている。

ジョン・リス・デイヴィス(ギムリ役)、78歳。ギムリ役の他にエントの長老・木の髭の声も担当。その声を生かして声優としても活躍。『アクアマン』『預言者』などでの声の出演を果たしている。

オーランド・ブルーム(レゴラ

ス役)、45歳に、『パイレーツ・オブ・カリビアン 最後の海賊』で10年ぶりにウィル・ターナーを演じた。プライベートでは、2020年、婚約者で歌手のケイティ・ペリーとの間に娘が生まれている。(また?)

ショーン・ビーン(ボロミア役)、63歳に、『ロード・オブ・ザ・リング』をはじめ、とにかく死ぬ役が多いことでも知られている。2019年に、最近では死ぬ役を断わっていると言っていた『スノーピアサー』『ボゼッサ』『ウルフウォーカー』などに出演している。

リヴ・タイラー(アルウェン役)、44歳に、『ブラッド・ピット主演』『アド・アストラ』などの映画、他にTVシリーズなどで活躍。3児の母で、第2子と第3子はまだ小さい。

ケイト・ブランシェット(ガラドリエル役)、53歳に。近年は『オーシャンズ8』『ドント・ルック・アップ』『ナイトメア・アリー』など、『ギレルモ・デル・トロのピノッキオ』にも参加している。

アンディ・サーキス(ゴラム役)、58歳に。近年は『ブレス しあわせの呼吸』『モーグリ・ジャングルの伝説』『ヴェノム・レット・ゼア

・ビー・カーネイジ』など監督として活躍。俳優としては、『THE B A T M A N - ザ・バットマン』『ロング・ショット 僕と彼女のありえない恋』『ブラックパンサー』などに出演している。

20年も時が流れてしまい。ビル・バギンズ役のイアン・ホルムはパーキンソン病を患い、2020年に88歳で、サルマン役のクリストファー・リーさんは2015年に93歳で亡くなっている。

観た作品は、『最後の決闘裁判』監督リドリー・スコット。実際に執り行われたフランス史上最後の決闘裁判を基にした物語。

『レミニセンス』監督リサ・ジョイ。海面上昇により、多くの都市が水没した近未来。記憶を再体験できる仕事についている男が、予想外の事態に巻き込まれていくSFスリラー。主演、ヒュー・ジャックマン。

『007/ノー・タイム・トゥ・ダイ』監督キャリー・ジョージ・フクナガ。007としては?なラストだけど、ダニエル・クレイグのボンドの最後としてはありかな。アナ・デ・アルマスという女の子がかわいくて強くて気に入った。

『DUNE/砂の惑星』監督ドゥニ・ヴィルヌーヴ。1984年の観てなかったけど、これはおもしろいと思ったらまだ続く。

『モータリタニアン 黒塗りの記録』監督ケヴィン・マクドナルド。暴かれたアメリカの闇。と知ったら観なくちゃ。9・11同時多発テロの首謀者の1人として不当に拘禁された男と米国の闘い。久々のジョディ・フォスター。

『リスベクト』監督リースル・トミー。ジェニファー・ハドソン演じるアレサ・フランクリンの半生。

『ヴェノム・レット・ゼア・ビー・カーネイジ』監督アンディ・サーキス。カーネイジがウディ・ハレルソンなら絶対おもしろいはず。他には、『マトリックス レザレクションズ』『燃えよ剣』『クライ・マッacho』『フレンチ・ディスパッチ』『ザ・リバティ、カンザス・イヴニング・サン別冊』『THE B A T M A N - ザ・バットマン』『ファンタスティック・ビーストとダンブルドアの秘密』を観た。

×

×

×

ヴィットリオ・デ・シーカとセルゲイ・エイゼンシュテイン 更には佐藤忠男と山根貞男

鈴木輝夫

露西亜無頼

〔キエフ・ルーシ〕或いは〔キエフ・ロシア〕と言う言葉がある。ロシアの名称は東スラブ族の一種族ルーシ族に由来する。そして九世紀、今のキーウ（ロシア語ではキエフ）を中心に、ウクライナ人やロシア人を含めたキエフ公国が成立した。それが紆余曲折を経て帝政ロシアへと発展した。十八代三〇四年間続いたロマノフ王朝である。私はこれこそが今回の惨劇の根本であると思う。

ウクライナ人とロシア人は言わば兄弟民族であり、皮肉にも兄弟である故、時として睦み合い、時として諍いを引き起こしている。愛憎相半ばである。共産党絶対のソ連邦であった頃は、強権的な中央統制に因って何とか押え込まれていたが、ソ連邦は一九九一年に脆くも崩壊に追い込まれた。（ロシア無頼）と言う言葉を始めて知ったのは、私が二十代後半か三十代の初めであった。ある評論家の著

書を読んだ時である。博識な人物で評論は多岐に渡ったが、ロシア文化・文明を論じた中でこのロシア無頼なる言葉を知った。

彼は〔露西亜無頼〕と記しているのだが、私は彼の論の進め方に魅了された。無頼とは無頼漢と殆ど同じ意味で、ならず者、ごろつき、悪漢とも称される。更に今一つの意味は、よすがのない人、頼る所のない人の意味もあるのだ。その著書には、ロシア人の精神性や心根や情緒や情動などの有り様が、極りなく精緻に論証されていて、私はそれ迄の己のロシア観を改めざるを得なかった。彼はロシア芸術一般の奥深さ。更にはその途轍もない野放図さ。その打ち震える許りの深遠さ。その驚く程進んだ前衛さ。それとは真逆のその保守性の頑迷さ。それぞれに強い説得性があった。ロシア無頼を知った同じ頃、ロシアの民話（イワンの馬鹿）なる話も知った。このロシア民話を元に、ロシア最大の文豪トルストイは、悪に対する無

抵抗の思想を説いたのだが、ロシア大衆の持つ精神性の不可思議さには暫し戸惑った。繰り返す。（露西亜無頼）とは良き意味も悪しき意味も含んでいるのだ。ロシア軍がウクライナに進軍した当初、それを伝える各テレビ局のワイドショーなどは、ウクライナの国を紹介する取っ掛かりとして、あの泣きに泣かせる「涙の反戦映画」

『ひまわり』を、さも得意気に語る若きキャスターやアナウンサーが複数認められた。であるが、かくの如くの皮肉を噛ませても、第一当の私自身が彼らと同じその映画を思い出していた。ロシア軍が先端を開いた今年二月二十四日早朝。その衝撃のニュースを逸早く伝えるラジオを聞きながら、驚愕の脳裏に先ず浮かんだのは映画『ひまわり』の伝説的名場面、何所までも何所までも乱れ咲く黄金色に輝く向日葵畑であった。それと同時に脳裏を掠めたのは、ロシアの同盟国ベラルーシから怒濤の如く進軍しているであろう、ロシ

アの新鋭戦車T七四・T八〇を核としたロシア機甲部隊の荒ぶる姿であった。映画『ひまわり』は一九七〇年度公開のイタリア映画で、監督はヴィットリオ・デ・シーカ、出演はマルチェロ・マストロヤンニ、ソフィア・ローレン、リュドミラ・サベリーエアである。

内容を一言で言わば、第二次世界大戦で対ロ戦線に投入されたイタリア兵と故国で待つその妻、更には、戦い敗れ瀕死状態に陥ったそのイタリア兵を救う、敵国ロシアの若く美しい女、彼ら三名の悲しくも切なくなる至高の愛の物語である。監督のデ・シーカはイタリア・ネオリアリズモの巨匠で、『靴みがき』『自転車泥棒』『ウンベルト・D』などの名作がある。『ひまわり』は記した三人を中心に展開して行くが、映画の題名通り、この作品の真なる主役は向日葵その物である。イタリア・ネオリアリズモの巨匠デ・シーカの腕はこの映画でも冴え渡り、咲き乱れる向日葵や延々と続く向日葵畑

の描写には唯々唸らされて見入る
 しかなく、人の生きて行く悲し
 みを無言のうちに強烈に訴えている。
 咲く花に心などあるう筈もなく

(恐らく)、勝手に咲いているので
 あるうが、丸で女と男と女この三
 人の関係を、悲しむかの様に、憐
 れむかの様に、痛むかの様に咲き
 乱れて、吹く風に唯々揺蕩ってい
 るのである。向日葵はウクライナ
 の国花。ウクライナに些か関係す
 るロシア映画(ソ連映画と言う可
 しか)に就いて記述する。世界の
 映画史を繙けば、必ずの様にこの
 ソ連映画は記載されている筈であ
 る。『戦艦ポチョムキン』。製作年
 度は一九二五年。ロシア革命二十
 周年記念映画として製作された。
 一九〇三年、ウクライナ(当然、
 当時は帝政ロシアであった)で実
 際に勃発した、戦艦ポチョムキン
 号の水兵達の反乱事件を描いてい
 る。

水兵達の反乱それ自体は失敗し
 たのであるが、以降、それを端緒
 として革命の機運はロシア全土に
 燃え広がり、一九一七年、ロシア
 革命は遂に成就した。故に、『戦艦
 ポチョムキン』なる映画は、ソ連
 邦に取って「神聖なる革命の映画」
 であった。監督はセルゲイ・ミハ

イロヴッチ・エイゼンシュテイン
 である。この映画の眼目は、所謂
 「モンタージュ理論」を物の見事
 に実践し、それ迄のその種の映画
 を凌駕した事であるう。故に、今
 でもモンタージュと言へば、必ず
 や『戦艦ポチョムキン』の名が上
 がる。モンタージュが顕著に見ら
 れる他の名作を記せば、アメリカ
 のD・W・グリフィス監督の『イ
 ントレランス』(一九一六年)、フ
 ランスのアベル・ガンス監督の
 『ナポレオン』(一九一九年)、同じ
 く『鉄路の白薔薇』(一九二三年)
 などが名高い。

モンタージュ論を極々簡単に言
 へば、「カットそれ自体の意味性を
 残しながらも、カットとカットを
 繋ぐ事に因って、それ以上の意味
 を生じさせる」、であらうか。『戦
 艦ポチョムキン』で言へば、彼の
 有名な「オデッサ階段での群衆虐
 殺シーン」がその典型である。(今
 はウクライナ語でオーディサと言
 う可きだろが、当時は帝政ロシ
 ア治下であるのでその儘にした)
 名作許りではない。次は超の付
 く大愚策を書く。付けも付け足り
 白々しくも選りに選ってその題名
 は、『ヨーロッパの解放』全五部作。
 何年度公開だったかもう忘れて仕

舞ったが、一九七〇年代である。

ソ連邦こそが、ナチズム国家・ド
 イツやファシズム国家・イタリア
 から全ヨーロッパを解放したのだ
 との、完全なる彼の国のプロパガ
 ンダその物の映画である。クルス
 クはロシア南西部の黒土地帯にあ
 る交通の要衝の町である。その地
 の周辺で一九四三年七月から八月
 にかけて、第二次世界大戦で最大
 の大戦車戦が展開された。ソ連ド
 イツ両軍合わせて、戦線に投入さ
 れた戦車・装甲戦闘車輛の総数は
 実に数千輦に及ぶ。ソ連軍は多大
 な兵士や車輛を失ったが辛うじて

この戦車戦に勝利し、何とかドイ
 ツ機甲部隊の進軍を阻止した。

プロパガンダその物の正に国策
 映画である為、資金は惜し気もな
 く使われ、ドイツ軍の四号戦車や
 五号戦車なども本物そっくりに作
 られ、ソ連を救った戦車と称され
 ているT三四型戦車などは、それ
 こそ獅子奮迅の大活躍を見せる。

「我が祖国ソ連万々歳」を暗に示
 唆、否、露骨に主張する鼻持ちな
 らない下々の国策映画である。

今からその鼻持ちのならなさを
 逐一あばき、この卦体糞糞悪い国
 策映画を粉碎する事にする。ソ連
 の機甲部隊とナチス・ドイツの機

甲部隊とは、その成立過程からし
 て兄弟であり、言わば瓜二つの双
 生児である。第一次世界大戦で敗
 北したドイツ帝国は膨大な賠償金
 を払わされ、更には軍備を最小限
 に制限され、国民の不平不満は深
 く静かに沈潜して怨念へと変り、
 やがてそれは燃え滾る憎悪となつ
 た。そしてその感情こそが、ナチ
 スを生む母胎へ変った。政権を合
 法的に掌握したナチスは、不満渦
 巻く国民にベルサイユ体制打破を
 訴えて愛国心を煽りに煽り、熱狂
 の嵐の内に着々と再軍備への道を
 歩み始めた。

そして、革命で帝政ロシアから
 ソ連邦へと激変した東の大国に思
 惑を秘めて接近し、その絶対的指
 導者のスターリンの下、秘密裏に
 ドイツ軍の機甲部隊の育成を要請
 した。勿論、スターリンはその要
 請を快諾した。稀代の二人の陰謀
 家は、「腹に一物」を秘めて手を握
 り合ったのだ。である故、ソ連と
 ナチス・ドイツの機甲部隊は正し
 く双生児なのである。一九三九年、
 「独ソ不可侵条約」は調印された。
 片やナチズムを片やコミニズム
 を信奉する二人の独裁者は、この
 不可侵条約でお互いの隣国ポーラ
 ンドを分割して自国領化したのだ

が、この全体主義体制両国の友情は長くは続かなかった。二年後の一九四一年の六月、ナチス・ドイツ軍はソ連領に破竹の勢いで進撃し、忽ち、今やソ連領と成り果てたポーランド東半分を占領した。

「独ソ戦」が遂に勃発したのだ。慢心していた前線のソ連軍は、ドイツ機甲部隊の電撃作戦に連戦連敗でズルズルと後退した。前記したクルスクでの大戦車戦はその一環であるのだが、ソ連軍がドイツ機甲部隊に辛勝した例外的な闘いであった。ソ連は遂に首都モスクワ北西四〇キロまでドイツ軍の進撃を許し、正に国家存亡の機であった。そんな絶体絶命のスターリンが最後に頼ったのは、何と「宗教」。茫漠たる大地が延々と続く国ロシアでは、その大地の為せる業か民衆の宗教心はこの上なく敬虔で、国教とも言えるロシア正教は農民を初めとした大衆一般に強い影響を与えていた。必然的にそれはロマノフ朝にも影響を与え、ロシア正教は国全体をも差配する強大な権限を持つに到った。

「宗教は阿片である——」、コミユニズムはかくの如く宣う。である故、スターリンはロシア正教を徹底的に弾圧して根絶やし寸前ま

で追い込んでいた。が、国家存亡の危機に一転。スターリンは内心ではロシア正教を信じる民衆に向かい、宗教心に起因するその愛国の情に切々と訴え、「ドイツ軍のナチ野郎どもを祖国ソ連邦全土からたたき出せっ」と獅子吼した。今一つ、ソ連に味方した思わぬ物があつた。冬期に於ける想像を絶する極寒である。英雄ナポレオンをも敗走せしめたあの厳寒。ソ連ではナチス・ドイツとの戦いを「大祖国戦争」と称している。それは、ナポレオンとの闘いを「祖国戦争」と称しているの、それとの関係に起因している。

この項の最後はやはりエイゼンシュテインで終りたい。現在は違う国になったが、当時はソ連邦であつたラトビア国生まれの彼は、一九二〇年代から一九四〇年代のソ連映画を代表する監督かつ理論家であり、世界の映画界に与えた影響は実に絶大で計り知れない。若し映画の教科書と言った物が存在するのなら、必ずやモンタージュ論と一緒にその名前が記載されているだろう。今日、彼を如何に評価すれば宜しいのであろうか？ 絶対的独裁者スターリンから、自分の監督した作品群を様々に批

判された彼は、苦悩や懊悩や煩悶をその心の奥深くに強烈に感じながらも、修正や改変や撮り直しを、万感こもももの中で決断して実行した。ここには「自由」の問題が、取り分け「表現の自由の問題」が、鰐口以上の「大鰐口」がその牙を剥いてうろろしているのである。国家と表現の自由。政治指導者と表現の自由。圧制と表現の自由。そんな様々の関係性が、業火の如く「冷たく燃え立っている」のだ。遅くなつたが彼の監督作品には

次の様な物がある。前記した一九二五年の『戦艦ポチョムキン』、一九二七年の『十月』、一九三八年の『アレクサンドル・ネフスキー』、そして、一九四一年から一九五八年の長きに渡って製作された『イワン雷帝』二部作など。

現今のウクライナ情勢を縷々伝えるワイドショーの呆れる許りの体たらく振りに、ある種の悍ましさを感じざるを得ない。キャスターやアナウンサーの余りの無知振りにだ。彼ら彼女らの多くは、全く「戦争」を理解していない。否、より正確には「戦争と言う営為の一般概念」をだ。「戦争反対」、「反戦平和」などの手垢の付いた標語

をのべつ叫んでいるだけでは、ワイドショーのアンカー・マンやキャスターは失格と言わざるを得ない。

紙幅がないので、誤解を承知で結論だけ書く。「愚者の楽園」で安逸を貪る我々日本国民は、早晩、「失楽園」と墮ちるであろう。果して「復楽園」へは還る事が出来るのであろうか——。現在の戦争の所謂「情報戦」に就いても書きたかつたが、これも全くスペースがないので断念する。

博覧強記

映画評論家佐藤忠男が亡くなった。齢九一。佐藤は戦後直ぐ雑誌への映画評などの投稿が認められ、やがてプロの映画評論家になったのだが、爾来、今日に到るまで驚く程長きに渡って第一線で評論活動をして来た人である。彼が投稿した雑誌・評論誌の中に、鶴見俊輔が主幹していた『思想の科学』があつた。その鶴見俊輔は、佐藤の映画評を「実に分析的である」と絶賛し、評論家への道を応援した。佐藤は本業であつた映画評論のみならず、演劇論・戯曲論・小説論、更には文化・文明論などの多岐に渡って論じた。書き上げた

単行本は優に一〇〇冊を大きく超える。

更に驚くのは、評論家生活の途次から、当時日本では殆ど馴染みのなかったアジア、中近東、アフリカ諸国の映画を我が国の小さな上映会などに掛け、その作品の日本での公開にも仲介の労を惜しまなかった事だ。佐藤は「海軍飛行予科練習生」出身であった。予科練で訓練を受けた期間は僅か六ヶ月。何故なら、昭和二十年八月十五日、大日本帝国は音を立てて崩潰したからである。戦後、佐藤青年は国鉄職員になったのだが、国論を二分した例の大合理化で敢えなく臍首となり、食わんが為に泣く泣く電々公社職員へと転職した。その間、佐藤の唯一と言って宜しい慰めは、只管映画を鑑賞する事であった。

そして鑑賞した作品の評を必死に書き上げ、諸々の雑誌への投稿であった。彼のそんな経歴からか、佐藤の物する評論には、何処かに弱者への温かい眼差の様な柔らかなさが感じられた。一九六八年、私は上京した。別して勉強何ぞしなかった訳ではなく、唯々、田舎の耐えられない隠微な閉鎖性が、小生意気な若者（今では口煩い唯の

爺に変わり果てたが……）には、憤懣遣る方なしの八方塞がり、兎にも角にもそこから脱出したかっただけだ。であるから、入学直後、学校には全く足が向かなくなり、日がな一日映画館に入り浸り、香り高いと称される文芸映画や難解を売りにする前衛映画を初め、煽情的なピンク映画から唯々セックスだけを見せる（但しボカシあり）洋ピン（外国製ピンク映画。ソフト・コアとハード・コアの両方あり）まで、あらゆるジャンルの映画作品を見捲った。

そんな時知ったのが、当時最も旺盛な評論活動をしていた佐藤忠男の著書であった。映画三昧の日々を送っていたので、忽ち彼の評論に魅了されて読み捲った。又、映画館に入り浸った頃から、映画を論じた月刊誌も読み始めていた。定期購読したのは次の三誌。『映画評論』『映画芸術』『月刊シナリオ』。特に、『映画評論』と『映画芸術』は毎月発売日が待ち遠しく、発売されるや否や直ちに貪り読んだ。当時の世相を反映してか、それらに掲載される一文は何人の筆致も皆々荒々しく、過激であり戦闘的であり非妥協的でありで、常に喧嘩腰の危うさに満ち満ちてい

た。田舎出の何も知らない私は、それらに驚愕しながらも興味津々で貪り読んだ。

佐藤忠男の評論一般は、それらの物とは明らかに大きな差異が感じられたが、当時の私は両方とも手当たり次第に読み捲り、彼ら彼女ら高名な評論家達の「筆法の妙」に痛く感動したので覚えていた。そこから学んだのは、——評論とは実にヤバく剣呑な所行であり、何時如何なる時に何人から批判の矢が射掛けられるか判らない——、といった冷徹な事実である。と同時に、——映画評論家と称されている人種は、ヤクザなはつたり屋でゆめゆめ信用などしてはならない——、といった事も又真実であると認めざるを得ない。映画評論家佐藤忠男、享年九十一歳。合掌——。

四万七千三百円。高い。貧乏生活をしている私などにはとても求める事は出来ない。最近一冊の事典が三省堂から出版された。『日本映画作品大事典』一九〇八年（明治二十七年）から二〇一八年（令和元年）まで、我が国で製作された映画類一万九千五百本（!!）が、総て網羅されているのだ。それを編集したのが、映画評論家の山根

貞男である。考えてもみよ、高名で売れっ子とは言え一人の映画評論家が、日本で製作されて公開された総ての映画作品の事典を作る何ぞは想像を絶する。

東京の京橋にある「国立映画アーカイブ」を筆頭とした準公的な映画・映像諸研究機関や、離合集散を繰り返して現在に到る映画会社なども、完全な形ではない迄もそれ相応にはやっているのだが、今迄我が国で製作された映画総てが網羅されているのは驚嘆の一言以外言葉が見当らない。私は山根貞男の映画評論や著作類を読む度、その桁外れた博覧振りと語彙表現の巧みさとに何時も舌を巻いて唸った。彼は辞書を引かなければ理解出来ない様な難解な言葉や、一部の哲学書で出くわす様な観念の上に観念を重ねた晦渋な言廻しは決してしてはいないのだが、その表現は一貫して高尚であり佳麗であり煌々しいのである。私は山根の評論集を数多く所有しているのだが『遊侠一匹・加藤泰の世界』『任侠映画伝』は、今でも折に触れて再三再四に渡って読み返している。

加藤泰こそは我が一番に好きな監督である。一九五三年『風と女

と旅鳥』一九六二年『臉の母』、一九六五年『明治侠客伝・三代目襲名』一九六六年『香掛時次郎・遊侠一匹』一九六九年『緋牡丹博徒・花札勝負』。彼が監督した映画の題名を書き出しただけでも胸が躍る。山根も『遊侠一匹・加藤泰の世界』の中で、それらの作品の素晴らしさを筆を尽して書き連ねている。『稀代の名評論家、稀代の名匠を語る』の感あり。

2022上半期のお薦め映画

- 「クライ・マッチョ」(クリント・イーストウッド)
男は、少年をメキシコの母親の元からアメリカにいる父親の元に届ける。イーストウッド、91歳でがんばる。
- 「ステイルウオーター」(トム・マッカーシー)
マッド・デimon、アビゲイル・ブレフリン、カミュー・コタン。殺人罪でフランスの刑務所に収監されている娘の無罪を証明するために父親が渡仏して。スウェーデン・オブ・グッチ(リドリ・グッチ)の若き経営者(アダム・ガライ)と。嫉妬に狂った妻は殺し屋を雇って。実話。
- 「山魚譜 チヤサンオボ」(イ・ジュニク)
韓国映画。19世紀初頭、キリスト教を信じて島流しにされた学者は、島の漁師から魚類の生態を聞いて本にまとめる。一方、漁師は学者から学問を学ぶ。漁師は出世への道を進むが。漁師
- 「ブラックボックス…音声分析捜査」(ヤン・ゴズラン)

掛時次郎・遊侠一匹』は、錦之助の繊細な極まる迫真の演技や、加藤の超ローアングル長廻しカメラ等の解説で、他の孰れの評論家も達し得ない評論の地平にまで行き着いたと思う。少し硬い表現をすれば、鋭敏な映画の感性が切れ味鋭い反応をみせて種々と結実され、それは瞬時、類い稀な言語中枢を維持している大脳から、「山根ワールド」となつて陸続として紡ぎ出されて行く、とても言え様か。

『任侠映画伝』は、「東映任侠映画」

- 「サスペンス。300人が死する旅客機墜落事故。事故調査委員会の分析官(ビエール・ニネ)がフライトレコーダーを解析、テロによる墜落事故だと思われていたが。」
- 「ノイズ」(廣木隆一)
犯罪ドラマ。瀬戸内のある島でよそ者が島の人間と揉み合いの末死んでしまうという事件が起こる。村人は隠そうとする。藤原竜也、松山ケンイチ、神木隆之介、黒木華、永瀬正敏。
- 「ゴダード あいのうた」(シアン・ヘダー)
コダとは、豊唾の家族のこと。父母兄が豊唾者。ヒロイン(エミリア・ジョーンズ)のみ健康で、歌がうまい。学校卒業後も家業の漁業を手伝ってほしいと両親は願うが、彼女は音楽学校に行きたい。アカデミー賞作品賞。
- 「355」(サイモン・キンバーク)
スパイアクション。米・独・中の女スパイ(ジェシカ・チャステイン)ダイナミクスを合わせた危険な敵に挑む。共演、ペネロペ・ワウエル。
- 「ウエスト・サイド・ストーリー」(ステイヴ・スウィーバー)
リメイク。前作にとらわれずに演出・振付。踊りもさることながら音楽が面白い。前作出演のリタ・モレノも女店主役で出て

画の事実上の生みの親」俊藤浩滋プロデューサーへの、山根貞男の聞き書の体裁を取っている。俊藤はあの女優藤純子の父親でもあり、若い頃、実際に任侠世界の人々とも交遊があった。彼の語る様々な裏話や秘話は、東映ヤクザ映画ファンなら必読の書である。『日本映画作品大事典』は、この先、人々に如何に利されて行くのだろうか？

最後は評論行為に就いて些かシニカルに。一般的に言ってあらゆる創作分野の評論家などは、別段存在しなくても宜しいのかも知れない。他者が場合に因つては「命懸けで創作した一物」を、「口先三寸」で甲論乙駁して無理にでも優劣を付けるのだから。辛うじてその存在意味らしき物があるとするなら、それは唯々、鑑賞者の「鑑賞の糧の極々細やかな一助」になるかも知れない、と考えられる程度の事であろうか。嗚呼――。

了

- 「アンチャーテッド」(ルーベン・フライス)
お宝探しの冒険活劇。トム・ホランド、マーク・ウォールバグ。
- 「ゴヤの名画とやさしい泥棒」(ロジャール・ミッチェル)
社会活動家である主人公は、名画を盗み、高齢者の公共放送の無料化という要求を政府に突きつける。真面目に働いてほしいと願う妻役にヘレン・ミレン。
- 「ザ・バットマン」(マット・リーヴス)
親の死の秘密。キャット・ウーマンとのラプストリートへ。暗いバットマンと。
- 「やがて海へと届く」(中川龍太郎)
先で津波にのめられた女性同士。一方が被災者が残したビデオから彼女との生活を思い出す。
- 「なんのなんだ」(山崎晋平)
主男と女の物語。下元史朗、鳥丸せつこ主演。40年連れ添った妻が交通事故で意死に。男は彼女もつていたカメラに知らず。素性を探る。下元史朗は娘とともに男に死を。映画界の顔。患者役が印象的。
- 「とんぼ」(瀬々敬久)
妻を事故で亡くした男(阿部寛)は子供を男手ひとつで育てる。町の人たちが(葉丸ひろ子、安田顕)の愛情にも包まれて、子供は成長する。
- 「大河への道」(中西健二)
伊能忠敬は地図完成の2年前に死んでしまった。弟子たちはそれを隠して完成にこぎつけた。現代と過去が交錯。双方の時代を俳優中井貴一、松山ケンイチほかは二役で演じる。
- 「ワン・セカイ 永遠の24フレーム」(チャン・セカイモウ)
中国映画。喧嘩がもとで刑務所送りになつた男が、娘が出ているというニュースフィルムを見ようと脱走。フィルムを盗もうとする少女などが絡んで。集会場で映画の上映を待つ観衆の熱気が印象的。日本でもかつて夏休みの熱気や野外映画会が行われた、その時の楽しい雰囲気。思い出した。
- 「セップガン マーヴェリック」(ジョセフ・コシンスキー)
トム・コネリー主演。共演、ジェニファ・ハーリスらが脇を固める。若手のパイロットにマイケル・テラー(セツシヨイン)。敵国の核基地を攻撃する任務。マーヴェリックは教官としてトップガン(エリット・パイク)と養成校)に赴任。生徒間の仲違い、上官との軋轢などを乗り越えて作戦を遂行する。(T・S)

予見された世界『ソイレント・グリーン』

中田 好美

1973年に公開された映画で、人口過多となり退廃した2022年の暗黒世界を描いた作品。

2022年、ニューヨークの人口は4千万人となり、人々の行動も外出禁止令によって徹底管理されていた。世界の人口は増加の一途をたどり、資源も底を尽き、食

材は富裕層しか買えない価格となった。毎週火曜日に国から配給されるわずかな水と、「ソイレント」と呼ばれるプラスチックのような固形食で、人々はなんとか食いつないでいた。

刑事であるソーン（チャールトン・ヘストン）は、警察の本（生き字引）でもあるソル（エドワード・ゴールデンバーグ・ロビンソン）と同居しながら、細々とした生活を送っていた。テレビでは、従来の高栄養植物食品である「ソイレント・レッド」、「ソイレント・イエロー」に続く新商品として、海中プラントンで作った奇跡の高栄養食品「ソイレント・グリーン」の宣伝が流れていた。ソルは自然豊かであった頃、美味しい食

文化を経験していたこともあり、ソイレントのことを「無味無臭のカス」と吐き捨てる。ソーンはソイレントを黙々と食べるが、そのような食事しか知らないソーンに対し、「哀れなもんだ」と眉間に皺を寄せた。

「おれがガキのころは味があつた。科学という魔術が水を汚染し、土壌を汚して動物や植物を殺した。昔は肉が買えた。卵も本物のバターも新鮮なレタスも。年中この暑さじや生物は生きられんよ」

「酷暑の温室効果」か？

同じ話を何度も聞かされてきたソーンは、うんざりした様子でソールと一緒に決まり文句を述べてみせた。天井からぶら下がった裸電球が、ちかちかと消えかかる。「地球半周分も漕いだよ」皮肉を言いながらも、ソルは発電機のペダルを漕いで薄暗い室内を照らした。

仕事へ向かうソーンがアパートの階段を降りていくと、人々が所狭しと横たわり、踏まずに歩くのも難しい。せめて屋根のある廊下で暮らしたいという思いで、軋む

階段に身を寄せ合っていた。屋外へ一歩出ると、辺り一面に壊れた車が並び、路上生活者であふれ返る。

ソーンは富豪サイモンソン（ジョゼフ・コットン）の住む家へと切り替わり、美しい女性シャール（リー・テイラー・ヤング）が、最新のゲーム機で遊ぶ様子が映し出される。煙霧に包まれた外の世界とは異なり、きらびやかな室内に空調も完備されていた。ごく僅かな富裕層だけが、不自由のない生活を送れるようだ。美しい女性

たちは、「家具（ファニーチャー）」として備え付けられている。家具には建物用と個人用があり、シャールは建物用としてサイモンソンと暮らしていた。家具の扱い方も、その時々所有者によって異なるのである。美しい家具として生活の不自由はないが、相手に身を委ねなければならぬ命運が、なんとぞ悍ましい。そんな中、サイモンソンはシャールに対し、とても優しく接しているようだった。

シャールは食材を求め、護衛の

タブ（チャック・コナーズ）とともに買い物へ出掛けた。小さなレタス、少ししなびたセロリ、3種類の瓶詰食材で合計279ドルという驚愕の値段。当時の通貨（1ドル360円）に換算すると、10万440円となるようだ。特別に注文していた牛肉も「こんな品はめったにお目にかかれませんよ」と言われ、牢獄のような保管庫の厳重ぶりが、その価値を物語っている。

シャールたちを見送り、サイモンソンが一人で酒を飲んでみると、鉄棒（ボールのようなもの）を手に持つ何者かが室内へと侵入してきた。そして、侵入者から伝言を聞いたサイモンソンは全てを悟り、抵抗することなく殺されてしまう。事件現場にソーンは捜査へと立ち入るが、そこで目にした豪華な暮らしぶりに目を見張る。ゲーム機にバーボン、好きなだけ使える水に、良い香りの石鹸。石鹸の香りを嗅ぎ、気持ちよさそうに顔や手を洗う姿がとても印象に残った。限られた水で髪を剃るのがやっと

であつたソーンにとつて、まさに夢のような空間。聞き取り調査を進めながら、ベッドにあつたシルク製の枕カバーを外し、その中へ石鹼やバーボンなどを詰め込む。帰る頃にはサンタ袋状態になつていて、思わず吹き出してしまった。玄関に置いてあつた貴重な食材も丸ごと持ち去り、清々しいほどの職権濫用ぶりだつた。

衛生班によつてサイモンソンの遺体が運び出されるが、行き先は郊外のゴミ処理場となつていて、葬儀が執り行われることはなくなつてしまつた。富豪であつても例外はなく、墓も建てられずに廃棄処分となる。かつて目にした日常のごみ出し風景は、遺体の収集作業へと様変わりしていた。

ソーンは帰宅すると、枕カバーから土産を取り出し「被害者の好意でな」と、ソールに喜んでみせた。白い紙や石鹼に目を輝かせたり、バーボンをなんとも美味しそうに飲むソールの表情がとてもいい。トマトやセロリを手に取り、満面の笑みを浮かべるソールへ、最後にブロック肉を差し出す。幻となつた牛肉を目の当たりにし、

「何てことだ、信じられん……」手で顔を覆いながら、感極まつて

涙を流す。食材のない日々が当たり前となつた世界に、鮮やかな命の彩りが並んだ。

ソールは食材を用いて、ソーンにディナーを振る舞う。プラスチック製のフォークを使おうとするソーンに対し、大事にしまつていた銀製のカトラリーを用意してみせた。自身や誰かの為に食器を選び、料理をより美味しく食べたいと思う心は、とても尊いものだと感じた。前菜（レタス）、メイン（ビーフストロガノフ）、デザート（りんご）の順に用意され、二人で顔を見合わせながら幸せそうに食べるシーンがとてもいい。満たされる舌に自然と笑みが溢れ、ゆったりとした優しい時間が二人を包み込む。ソールがデザートのにんごを服できゅつと磨き、ソーンにまるかじりの仕方を教える姿も微笑ましい。ソールのあたたかい眼差しと、ソーンの満たされた笑顔がとても印象に残る、作中で一番好きなシーンだ。

ブランドーを注ぎながら、「これで分かつただろ？ 昔はこうだったんだ」ソーンに言い聞かす。「分かつてる、分かつてる。昔は人間もよかつた」と返すが、すかさずソールは「いや」と否定し、かつて

の光景を懐かしむかのように、「人間はダメだが、世界は美しかった」哀愁を帯びた目で遠くを見つめた。

ディナーを終えると、事件の真相を求め二人で推理を始める。ソーンは事件現場の様子や立ち入り調査によつて、護衛のタブが手引きし、サイモンソンを暗殺したと考える。タブの自宅へ立ち入り調査した際、贅沢な暮らしが垣間見え、裏金の動きがあるようだった。普通の護衛では手が届かない、いちごジャムが置いてあつたり、個人用の家具（美しい女性）と一緒に住んでいたことも決め手となつた。ソールも人名辞典を用いてサイモンソンの身元照会を行い、弁護士ではなくソイレント委員会の重要人物であつたことを突き止める。

ソーンは再びシヤールを訪ね、サイモンソンの事件前の様子を詳しく聞いた。すると、情緒が不安定だつたことや、神父に祈りを捧げていたことを知る。ソーンは神父に告白の内容を聞くが、その全ての真実が身の破滅を招くとして、決して口を割らなかつた。署でそれらのことを報告すると、上司ハッチャー（ブロック・ピーターズ）から暴行事件として終決したこと

にし、署名をしると圧力をかけられる。事件の重大さを知っているソーンは、「ソイレント社の幹部が鉄棒で殴り殺された。闇には葬れん！」怒りを露わにし、次の現場へと部屋を後にする。

この日は配給日であつたが、不正によつてソイレント・グリーンが足りなくなつてしまい、ソーンは市民の暴動鎮圧へと向かつた。不満に声を上げる人々を重機（シヨベルカー）で退けるシーンは、まさにごみの扱い。人権が失われた世界は、あまりにも機械的で、偏つた力により声すら封殺される。ソーンは暴動のさなか、命を付け狙う殺し屋によつて足を撃たれるが、人混みが盾となり窮地を脱した。その後すぐさま、暗殺依頼をしたであろうタブのもとへ殴り込みに行き、「これ以上捜査の邪魔をすると二人とも殺すぞ。尾行はやめろ！」と釘を刺した。

一方ソールは情報交換のため、本たち（博覧強記である人々）の集う「交換所」へと足を運んだ。そして、サイモンソンがソイレント社の裏事情を知つて正気を失い、口外を恐れた上層部に口封じされたことを知る。本たちから、それらの事実を立証し、国際審議会へ



の提訴を助言されると、ソルは「神よ」と絶望した。「神とは? どこに神が?」と返され、しばらく思いを巡らせた後「ホームに……そう、ホームだ」領きながら答えを出し、ホーム(安楽死施設)へ行くことを決意する。ホームの受付には老者が次々と列をなし、好きな色や音楽を聞かれ、式典を行う一室へと案内される。広くて清潔感のある白い室内には、高さのある大きなベッドが置かれていた。ソルは二人の付き添い人に手を引かれ、ゆっくりとベッドに横たわる。衣類を脱ぎ、飲みものを飲み終えると、オレンジ色の柔らかな照明が部屋を包み込む。そして、ベートーヴェンの交響曲第6番「田園」とともに、美しい映像が映し出された。

る光景に釘付けとなり、ソルとともにしばらく映像を眺めていた。通話許可が表示されると、「なんてことを」と悔やみ嘆くが、「もう歳だ、愛してるぞ」ソルはソーンに優しく微笑む。

「見えるか? きれいだ。言っただろ?」

「ああ、こんなに美しい風景……想像もつかない」声を詰まらせ、涙を流す。荒れ果てた世界しか知らないソーンにとって、その映像はまさに楽園であった。口では何度も伝えてきた美しい世界を、ソーンと一緒に見られたのがとても嬉しそうで、切なさのなかにあったかい愛を感じた。

死の間際、ソルから全ての真相を聞かされ、「裏付けを取れソーン。交換所へ行け、頼むぞ。立証しろ」自らを犠牲にして真意を悟らせる。ソーンはその思いを胸に、立証することを固く決意する。式典が終わり奥の扉が開くと、流れ作業のように遺体が運ばれていった。導くまではとても丁寧に接していたのに、終わった後の扱い方が「もの」という感じで、日々大量の人々を処理している冷酷さがあった。

ソーンは遺言どおり、回収されていく遺体を追い掛け、ごみ収集

車へと乗り込む。処理場へとたどり着くと、大量の遺体袋が一箇所に集められ、どさどさと音を立てて落ちていく。内部へと更に潜り込むと、集められた遺体がベルトコンベアーに乗って、液体の中へ沈められる。様々な工程を経た最終ラインでソーンは衝撃を受けるが、その真実を目に焼き付け、いち早くハッチャーに伝えねばと工場を抜け出す。

交換台で取り次ぎを待っている、先回りしていたタブが殺し屋とともにソーンに忍び寄る。ハッチャーへ「交換所の前へ来てくれ」と伝えた直後、激しい銃撃戦が始まる。殺し屋をなんとか退け、教会へ隠れようと走り出すが、タブに背後から急所付近を撃たれてしまう。それでもソーンは立ち上がり、教会の中へと逃げ込んだ。ソーンは眠りにつく大勢の人々に紛れ、息を潜める。タブが血痕を辿りソーンを探していると、静かな教会に突然物音が響く。すかさずタブが銃で撃ち抜くと、市民が巻き添えになってしまう。発砲を聞き、ソーンはタブに飛びかかるが、重症を負った体では歯が立たず、一方的に殴られ床へと倒れ込む。ソーンは近くに落ちていた刃物を

握り締め、目を瞑り覚悟を決める。ソーンに止めを刺そうと、ゆつくりと近づくとタブ。二人の距離が縮まった瞬間、ソーンは刃を思い切りタブの腹へと突き刺す。その傷が致命傷となり、タブはそのまま息絶えた。

ソーンは血だらけになりながら、駆けつけたハッチャーに全ての真実を伝える。

「連中に必要な証拠をつかんだ。海もプランクトンも絶滅だ。あとは人間。ソイレント・グリーン为原料は人肉だ」

ハッチャーは驚愕し、残酷な現実息を飲む。

「人肉が食料になれば、次は食用人間の飼育だ。必ず伝えてくれ、皆にだ」

ハッチャーの服を掴み、念を押す。

「分かった、必ず伝える」

その手を強く握り返し、重症を負ったソーンを担架で運び出す。

「いいか、ハッチャー必ず伝える！ソイレント・グリーンは人肉だ！絶対に阻止しろ！」

担架で運ばれながら、ソーンは力の限り叫ぶ。

大衆の前で真実を叫んでも、周囲の人々の表情は虚ろで、驚く様

子も見受けられなかった。絶望に満ちた世界が、これからも続いていくようで、救いのない終わり方に感じてしまった。

映画の話は絵空事ではなく、現実世界でも食糧危機が起きている。アメリカでは養鶏場、養豚場、食品加工施設などで不可解な火災や爆破事件が起き、多くの命や食品が失われてしまった。そこに拍車をかけるかのように、鳥インフルエンザや豚インフルエンザによる殺処分が続いている。急激な天候の変化により、小麦やトウモロコシなど、食糧大生産国の極端な不作為が予測されている。肥料価格は例年の3〜4倍となり、生産コストは上がるばかり。スーパーで手にするあらゆるものが高騰し、いつまで好きなものが食べられるか分からない。小麦やバターが買える間に、思う存分焼きたてのパンやお菓子作りを楽しもうと思った。早ければ2022年の秋冬にかけて、食糧危機が起こる可能性も示唆されている。そういった大きな報道が起きてからでは、店舗には何もない状態となってしまう。コロナ初期に起こった買い占めなどにより、トイレット・ペーパーやマスク、日持ちする食品が棚から

消えたあの日のように。食材の高騰が止まらず、あらゆるものが買えなくなつたとき、何を食べて生きていこうか。食料がなくなれば、人々は代替品を求める。そこに昆虫食や人工肉などがあれば、それらが主食と取って代わるだろう。今のうちに種子を買い、家庭菜園を始めるといいそうだ。少しでも自給自足ができたらと思い、今年から本格的に家庭菜園を始めた。トマト、茄子、ピーマン、枝豆などが庭で小さな実をつけている。日頃から備蓄できるものとして、パスタ、缶詰、塩や砂糖など、消費期限が長いものを多めに買うのもいいそうだ。自家製保存食をいろいろ作れるよう、梅干しや味噌作りにも挑戦したい。色づく菜園に小さな希望を託し、自分にできることから少しずつ始めている。

×

×

×

『七番房の奇跡』

獄舎の父と愛娘
まなむすめ

久保嘉之

このところ韓国映画をよく観ている。かなり以前『牛の鈴音』や『アジョシ』との素晴らしい出会いがあったものの、韓国映画そのものに夢中になることはなかった。

それがなぜ？ というと、私のつれあいが韓流ドラマに夢中でよく観ており、私も付き合って観るようになったのだが、何せ韓国のTVドラマは長いのである。五十話

六十話は当たり前で、中には百話を越えるものがざらにある。NHKの大河ドラマどころの比ではない。何作かは全編通して観たものもあるが、とても体力的に無理なので、専ら〈映画〉に比重をかけて観ている、という次第なのだ。

が、それにしても映画もTVドラマも、途轍もない量である。外貨獲得のため、国策として映画産業やショー・ビジネスに力を入れた、というのが背景にあるのだから、今やその熱量に圧倒されんばかりである。従って観る方としてはすべて網羅はできないので、選別しなければならない。のだが、

私の基準はかなり好い加減で、ほぼ直感である。当然外れることの方が多い。しかし素敵な出会いもたまにある。これから紹介する『七番房の奇跡』（イ・ファンギョン監督）は、少し前の作品だが、その最たるものではなからうか。監督の人を見る眼の優しさが、とても素晴らしい。

——イ・ヨング（リュ・スンリョン）は知的障害者である。知的年齢は六歳程度。だが彼は、スーパーマーケットの駐車場係として、安い給料ながら一人娘イエスン（カル・ソウォン）を育てていた。二人暮らしである。死別したのか、それとも離別したものか、妻はいない。毎朝出勤する父親を見送るイエスン。父親が歩き出すと、彼女は数を数えはじめる。一、二、三で、父親は必ず振り返りおどけた仕種を見せてくれる。日課である。それがたまらなく嬉しかった。眼の中に入れても痛くない、活発で利発なイエスは今年小学校にあがる。日本のアニメであるセ

ーラー・ムーンが描かれた黄色いランドセルを、イエスは欲しがった。給料が出たら買ってあげる。その日が待ち遠しくて、ヨングの帰り待ち合せては、必ずショー・ウインドーに飾られているランドセルを、二人して眺めた。

明日は待ちに待った給料日。今日も今日とて二人してランドセルを見に行く。だがまさにそのランドセルを、買おうとしている親子がいたのである。女の子とその両親と思しき親子連れ。慌てて二人は店の中へ飛び込む。「それイエスンのランドセル。ふたりで毎日見に来ていた。買っては駄目だ」ヨングは理由をうまく説明できない。只そう云い募るばかりなのだ。相手の父親は、理不尽とも思える繰り返される制止に業を煮やしたか、必死に懇願するヨングを張り飛ばす。一度ならず二度。ランドセルは買われてしまった。

昼の休憩時間、ベンチで大事そうにもらった給料を数えるヨング。昨日買ってもらったばかりのラン

ドセルを背負った件の少女が、通り掛かりヨングに気付き。彼を気の毒に思ったものか、同じランドセルを売っている店を知っていると、教えてくれた。舞い上がらなばかりのヨング。「案内してあげる」先に立って歩き出す。続くヨング。

——市場の中の道。角を曲がろうとした年配の女性が、仰向けに倒れている少女のベルトを緩め、覆いかぶさって口づけしているヨングを見て、腰を抜かした。変質者が幼い女の子に対し、不埒な行為に及ぼうとしていると、勘違いしたのである。……女の子は死亡し、ヨングは逮捕された。

亡くなった女の子の父親は、何と警察庁長官であった。それがヨングにとつて、最大の不幸だったのかもしれない。事件はセンサーシヨナルに報道された。長官に殴られた男が、そのことを根に持つて、娘を誘拐して殺害した。「一週間で解決しろ」警察は捜査を急がざるを得なかった。他に容疑者は

見当たらない。多くの不備を黙殺してまでも、是が非でも、ヨングを犯人に仕立て上げなければならなかった。当然事故の可能性は、無視された。

「女兒誘拐及び強姦殺人事件」第一審の判決は、死刑。第二審を待つて、ヨングはソナム刑務所に収監された。入所初日、刑務課長室で並んだ新しい収監者たちに訓戒を垂れる、課長チャン・ミンフアン(チョン・ジニョン)。机の上の電話を見て、ヨングはイエスンに連絡しなくては、という思いに促される。元気でいるのだろうか、さぞ心配しているだろう。受話器を手にし、ダイヤルをプッシュしようとする。ミンファン課長は、受話器を取り上げると、それで執拗に何度もヨングの頭を殴り付ける。追々明かされるが、実は課長には目をかけていた受刑者に、一人息子殺されてしまったという過去があったのである。当然受刑者に心を許さなくなっている、いやそれどころか憎むようにさえなっていた。ヨングの常軌を逸した行動が、心の内に仕舞っていた彼の憎悪を、燃えあがらせたのである。

房室は七番房である。先住者は

房長である暴力団員のヤンホ、詐欺師のチュノ、姦通罪で捕まったマンボム、臨月の嫁が気懸りな拘摸のボンシク、そして長老格のソ爺さんの五人。入所の挨拶、自己紹介のつもりでもあったのか、自分が生まれた時の様子を話し出すヨングに一同は、「何だこいつ」奇異な目で見ていたが、「いったい何をやったんだ？」手荷物と一緒にヨングが手にしていた罪状を記した書類を、ヤンホ(オ・ダルス)は取り上げ詐欺師のチュノに手渡す。みんな知らなかったが、そしてこのあと瞭かになるのだが、暴力団員ヤンホは文盲、字が読めなかったのである。チュノが読み上げた罪状に、ヤンホは切れた。罰則に軽い重いはあるが、犯罪に序列がある訳ではない。だがヨングが犯したとされる犯罪は、尤も忌まわしい、人として最低の行為だと見做されていたのである。一同の目付きが、軽蔑に変わった。ヤンホはヨングの頬を張り飛ばす。思わず後ずさりするヨング。追いかけて更に殴るヤンホ。

だがそんなヤンホの認識を改めさせる事件が、勃発する。ヤンホは塔で見張る看守を抱き込み、刑務所内で作るサッカーボールのひ

とつに、囚人たちの欲しい物リストを忍ばせて塀の外へ蹴り出し、投げ返されたボールの中にはその品物が入っているという方法で、小遣い稼ぎをしていたのだが、対立するグループの親玉である(丸刈り)と呼ばれるパク・サンミョンに、「人の縄張を荒らしやがって」と恨まれ、歯ブラシの柄を研ぎ澄ました凶器で、襲われたのである。それを救ったのがヨンギであった。だが、代わりに彼が刺されたが、ヤンホは「命の恩人だから、何でも好きなものをやる」と宣言する。ヨングはひと言、「イエスは可愛い娘に会いたい。ヤンホは訳が判らず、「何、イエス？」キリストと勘違いするのだが、これが次にイエスを刑務所内に忍び込ませる方法の、また出所したあとヤンホが神父の道を歩み出す見事な伏線となっているのだが、果たしてこれは企んだものだったのだろうか。

約束は守る、ヤンホは男気溢れる暴力団員であった。慰問に訪れる聖歌隊。「ん？ 子供もいるのか」課長が訝しんだように、普段は子供などいない。場所が場所だけに、教育上よろしくないからだ

ろう。それが三人いた。雛鳥のように大きな口を開けて、懸命に歌っている。聖歌隊の歌と共に披露されるダンス。子供たちの姿が一瞬だけ覆い隠される。その隙に、一番小さな女の子の姿だけが掻き消えた。イエスンである。彼女はダンボール箱に入れられ、台車に乗せられ、姦通罪のマンボム(キム・ジョンテ)によって七番房へ運ばれる。手品のように箱から飛び出すイエスン。ヨンギの喜びようたるや、天にも昇らんばかり。

当初、二時間の余裕があった。ヨンギとイエスンの逢瀬の時間である。だが聖歌隊を率いる神父が心臓疾患で倒れたため、帰りを急ぐこととなった。拗ねるイエスン。何とか宥めると、再びダンボールを運ぶマンボム。だが聖歌隊のバスは、あと少し、眼の前で発車してしまう。

七番房の囚人たちは、とんでもない窮地に立たされたのである。イエスを外に出す方法はない。となると、方法が見つかるまで房内に留め置くしかないのだが、一日に何度も看守が見回りに来る。隠し通すのはまず不可能だ。ばれたらどんな仕置きが待っているのか。……囚人たちの懸命の努力

にもかかわらず、案の定、見つかつてしまった。イエスンが強制的に送り返されたのは無論だが、ヨングは主犯として独房に入れられる。

——何日か経った頃、刑務所内で火事騒ぎが発生。件の（丸刈り）が、肉親との面会も思うようにさせてくれない待遇への不満を一気に爆発させ、物置として使われている倉庫に立て籠り、どうやって手に入れたのか、灯油を撒いて火を付けたのだ。拡がる炎。説得する看守。だが（丸刈り）は応じない。課長も駆け付ける。火の回り具合を見て「全棟開房」を命じた。まず囚人たちの避難を優先させたのである。次に、これ以上の説得は無理と判断し、倉庫のドアの鍵を壊し始める。壊れた。中はまさに火の海と化していた。果敢に入り込む。だが倒れてきたロッカーで頭部を強打し、意識を失ってしまふ。独房をでて避難しようとしていたヨングが前を通りかかり、倉庫の中に人が倒れているのに、気付く。

課長の意識が戻ったのは、医務室のベッドの上であった。医者が覗き込んでいた。助かったのか、でも「誰が？」医者は衝立代わり

のアコーディオン・カーテンを開けると、隣のベッドでまだ意識が戻らないヨングを指して、「奴がいなきや、線香を焚かれてるとこだ。課長を背負ってくる間、自分も煙を吸っている筈なのに、涙と鼻水を垂らしながら『課長を助けて下さい』と……」次いで不審そうな顔で、「こいつ本当に誘拐犯ですか？ された方では」課長は黙ってヨングの顔を見詰めていた。

課長の許へ電話が入った。父親に知らせて欲しいということを受けた連絡は、イエスンが入院したというものだった。取り敢えず自らイエスンを見舞うことにする。「何も食べないので」看護士の言葉通り、イエスンは衰弱していた。父親に会えないのが応えているのだ。か細い声で「一緒に刑務所に入れない？」課長に頼むのである。

ヨングには助けってもらった恩義もある。しかも自身ヨングの罪を疑いつつもある。課長は決意した。七番房の囚人たちと同じ方法で、イエスンをヨングの許へ送り届けたのである。イエスンは、半ば公然と刑務所から学校へ通うことになった。まさに奇跡ともいえる出来事である。

——「絵本を読んで。おじちゃんの声が一番好きなの」イエスンのお願いで、字が読めない事をみんなに暴露されてしまったヤンホだったが、そんな彼にイエスンと姦通罪のマンボムが読み書きを教える。

——娘が生まれた掏摸のボンシク（チョン・マンシク）。妻に、子供に会いたい。そんな彼の様子をみて、イエスンは級友から借りた携帯電話を差し出す。無論持ち込みは禁止されている。みんなで見守りの見回りを警戒しつつ、電波の入る場所を求めて、房内をうろろ。どうにか妻と話すことが出来、子供の声も聞いた。嬉しくて半泣きである。

——カーテンをめくると壁にヌード写真が貼り付けてある。詐欺師チュノ（パク・ウォンサン）は恋人だと宣言。或る日、気が付くと何とセーラー・ムーンの如くセーラー服を着せられてるではないか。「だって寒そうだったんだもん」イエスンが、書き加えたのだ。ヨングの二審の日程が決定した。今ではもう、刑務所内にヨングの犯行だと疑う者は誰もいなかった。特に七番房の面々は、裁判ではこういう風に受け答えしろなのだ、い

ろんなアドバイスをヨングに与えた。彼が普通の人間ではないだけに、余計心配だったのだろう。その内、ヨングが犯人でないのなら、少女はなぜ死んだのだという疑問が湧いて出て、では実地検証してみようということになった。当然現場に向けるわけではないので、ヨングの話を基にした再現である。

犯行？ 日時は、二月二十七日の一時十五分、ヨングの昼の交代時間の時である。場所は市場へ抜ける道。「待てよ、その日はマイナス十八度の気温で、昼のシャワー時間に水道管が凍ってお湯が出なかった」「市場の道だったら、水が撒かれているから、それが凍ってたんじやないか？」少女は滑って転んで、その拍子に頭を打った。「だがレンガは？」レンガで殴られた傷が、致命傷だと見做されていたのである。実際は、少女は滑ったとき咄嗟に手近の紐を掴んだ。紐の先にはレンガが括り付けられており、屋台を覆うブルーシートの重し替わりにされていたのである。多分取り除くとき楽なように、紐で縛ってあったのだらう。掴んで倒れたためレンガも引かれて滑り落ち、少女の頭を直撃した。「なぜベルトを外した？」ヤンホ

だが二審当日の朝、ヨングの控室に警察庁長官が現われる。係官に席を外させると、ヨングを何度も殴り付け、「罪の罰は甘んじて受ける、さもないとお前の娘を同じ目に遭わせる」脅し上げたのである。ヨングの他に容疑者はいない。おそらく長官は娘を殺した犯人としてヨングを憎むことで、心の均衡を保とうとしたのではなからうか。憎んで憎しみ抜く対象を求め

たのである。まして不幸な事故だったと結論付けでもされたら、深まる喪失感に正気ではいられなかつたろう。担当の弁護士でさえ、幾ら国選とはいえ、「あんたが死ねば、娘イエスンが助かるんだぞ」強要する始末であった。

——遂にヨングは、法廷で自分が殺したと認めてしまう。頭の中は、イエスンが殺されてしまうという恐怖で一杯だった。判決は一審と同じく死刑。廷内は騒然となった。課長が必死に叫ぶ、「ヨング何故だ、どうして自分はやってない」と云わない！」

その声も耳に入らないかの如く、ヨングは「ありがとう、感謝します。イエスンを助けて下さい」何度も何度もそう繰り返していた。通常は判決が云い渡されてから、

刑が執行されるまで、かなり間があくのだが、事ヨングに関しては執行命令の通達が、矢鱈早かった。警察庁長官の意向が働いていたのだらうか。十二月二十三日、クリスマス・イブの前日である。「そうはさせるか」ヨングの無罪を確信している七番房の面々は、ヨングとイエスンを一緒に逃がす計画を立て、準備を始める。またもや聖歌隊の慰問を利用することにする。但し今回の聖歌隊に大人の姿は無く、子供ばかりである。宴もたけなわになった頃、歌いながら子供たちが整然と舞台から降りてきて、それぞれ囚人と手を繋ぎ会場の外、中庭へと出て行く。看守たちは、一瞬大丈夫なのかという表情を泛べるが、見守っている課長が何も云わないので、後をついていく。

イエスンも父親とすっかり手を繋いでいる。中庭の真ん中に気球が据えられていた。子供等は大喜び、大はしゃぎで我先に気球に乗り込もうとする。ヤンホ・チュノ・マンボム・ボンシク・ソ爺さん（キム・ギョチョン）、七番房の仲間は、大急ぎで子供たちを下ろすと、ヨングとイエスンを乗せ込み、繋ぎ止めていたロープをほどく。気球は二人を乗せて浮き上がった。看守たちも流石に気が付き、押し止めようと目掛けて走る。囚人たちがそれを妨害する。気球は既に手の届かない処まで浮かび上がっていた。課長は壁に凭れて、これでもいいんだという表情で黙って気球を見詰めている。イエスンとヨングは、監視塔の上でこちらを見上げて、見守る。看守

ごまめ書房の映画の本

侏儒の映画館 今秋発刊!

久保嘉之・著。人斬り五郎のジレンマ—我が愛しの渡哲也—、映画化された江戸川乱歩の作品、バットマン論—あるスーパーヒーローのプロフィール—、リドリー・スコットの映画、など。600ページ。「本書は、厳密には映画の評論集ではありません。私が観て感銘を受けた映画、とても面白かった映画、興味深いと思えた映画などを綴った、映画案内です」（あとがきより）。予価 2200 円＋税

昭和映画屋渡世

坊っちゃんプロデューサー奮闘記

斎藤次男・著。『切腹』『男はつらいよ』製作の熱血漢が生み出した、歴史に埋もれた大衆娯楽映画の数々——。現場に飛び散る汗、涙！ 1960年代の映画屋たちの熱気が甦る。映画評論家、書評等絶賛！ 定価 2200 円＋税

おしゃべり映画館

N雄とN子の21世紀マイベストシネマ

門馬徳行、岩館範子・共著。映画対談集。147本をシネマフリークが語りつくす。定価 2000 円＋税

映画館をはしごして

小泉 敦・著。暗闇の空間での筆者と映画作家の「対決」！ 観たものを言葉でとことん読み解く。定価 1900 円＋税

人生は映画とともに

今市文明・著。青春時代の映画を語り、ヨーロッパのロケ地を旅し、スターを語る。定価 1900 円＋税

観る・書く・撮る

シネマフリークここにあり

門馬徳行・著。フツのおやじのヘンに熱っぽい映画評論プラス自作シナリオ集。定価 2800 円＋税

ばってん映画論

久保嘉之・著。ジェームズ・ボンドと俺が初めて出会ったとは、忘れもせんクリクリ坊主の中学2年の秋やったばい——。注目の娯楽映画評論集！ 定価 2000 円＋税

●自費出版のご用命も承っております。安く、丁寧に仕上げます。お気軽にご相談ください。



ごまめ書房

〒270-0107

千葉県流山市西深井 339-2

電話 04-7156-7121

FAX 04-7156-7122

gomame.co.jp

筆者の近況等

門馬徳行〓なんの前触れもなくインターフォンが壊れる。突然、TVの音が出なくなる。ある日、タブレットがエンストする。電話の音が急に小さくなってしまふ。洗濯機が水漏れを起こす。すべての電気器具は突然、壊れる。安心していた世界が見る間に維持できなくなる。油断大敵。ささやかな生活の中にも不安要素が潜んでいる。目を転じて世界の話になると、さもありなん。すでに、一部の独裁者による残酷で恐ろしい世の中になっている。先の読めない時代だからこそ、おのずと映画も変わっていくに違いない。

堀江広子〓夫の家が浄土真宗で地区の門徒さん宅に何う用事があって何軒か行くと、コロナ禍で外出自粛をしているせいか、どの方も畳み込むようにおしやべりを始めます。他人と会う機会を失い寂し

い思いをされているのだなと実感します。他者との交歓の大切さを痛感するこの頃です。

中田好美〓新型コロナウイルスは、サル痘に由来のバイオテロがシミュレーションされていた。2021年3月、核脅威イニシアチブとミュンヘン安全保障会議が共同でシミュレーションしていたものであるが、2022年5月からサル痘の感染が始まるとされており、その想定通りに感染が始まり、今も広がりを見ている。この2つの組織に対し、ビル&メリンダ・ゲイツ財団は、合計470万ドルの資金提供をしている。ビル・ゲイツ自身も2022年2月18日にドイツで開催されたミュンヘン安全保障会議において、「コロナパンデミックが収束する前に、また新しいパンデミックは起こるか？」という質問に対し、新たなパンデミックが発生し、その病原体が今までと異なること

す。ヨングが用意したのは、セーラー・ムーンの絵が描かれた黄色いランドセルであった。喜ぶイエスン。だが別れの時は刻々と近付いていた。みんなに御礼と別れを告げ、イエスンと共に七番房を出るヨング。だがイエスンが同行出来るのは、刑場の入り口までである。境の鉄格子越しに最後の別れ。引き立てられるヨング。廊下の角を曲がる父。イエスンは数を数える。「一、二、三」だが父は飛び出してこない。もう一度数える。やはり父は姿を現さない。イエスンは大声で父を呼ぶ。その声でヨングは看守の手を振り払い、イエスンの許へ戻る。鉄格子越しに抱き合って泣く二人。……本作は、各エピソードがユーモアというオブラートで包まれているので、全編楽しく観れるのだが、流石にこのシーンだけは、滲む涙を禁じ得ない。



『七番房の奇跡』

もイベントの一環だと思ったのか、挨拶を返してきた。気球は塀を乗り越えた。やった、計画は成功だ！ 喜ぶ四人たち。だがそうは間屋が卸さなかったのである。まずい、ヤンホが大声を上げる。気球を繋ぎ止めていたロープが、垂れ下がった状態で、塀の上部に張り巡らせた鉄条網に引っ掛かってしまったのだ。宙ぶらりんの状態で、気球は動かなくなってしまった。やんぬるかな！

——死刑執行当日。七番房のみんなと一日早いクリスマスを祝う。銘々がイエスンにプレゼントを渡す。

付記——今は所長に出世したチャン課長夫妻の養女として成人したイエスン（パク・シネ）は弁護士となり、義父の協力を得て再審請求を通し、見事実父ヨングの冤罪を晴らし、無罪を勝ち取ります。

す。ペダルが徐々に重くなり、それにより心臓にかかる負荷を測定するのだそうです。何分ぐらいいのだだろう。先生が「あと2分です」と云った時、動悸や息切れは感じませんでしたが、足がすくなく重くなってました。結果は、「心臓は異常なく頑張った動いてくれますよ」というものでした。どうやらもう暫くは生かしておいて貰えそうです。

関田孝正〓久保嘉之氏の本「侏儒の映画館」を製作中です。無頼シリーズなど日活時代の渡哲也の映画、江戸川乱歩の映画など書下ろしのほか、本紙に書いたバットマン論、リドリー・スコットの映画などをまとめたものです。600ページ。読みごたえあります。10月には購入できます。書店、ネットで注文して読んでください。

フィルムは生きている

「ハケンアニメ！」(監督＝吉野耕平)

テレビアニメの視聴率ナンバーワン(覇権)をめざす制作会社同士の争いを描いている。演出家のみならず、プロデューサーや現場のスタッフにも焦点を当てた群像劇だ。やや登場人物がステロタイプ的ではある。自信過剰に見える天才演出家(中村倫也)、その天才の手になるアニメを子供の頃見て彼を超えるアニメをつくることに情熱を注ぐ新人女性演出家(吉岡里帆)。会社・演出家・現場の間で板挟みになりながら活路を見出す女性プロデューサー(尾野真千子)、かたや冷戦沈着な一見嫌味に思えるプロデューサー(柄本佑)だが、みごとにえはある。創作者としていかに自分の思いを映像に定着させるか、それだけでは駄目で視聴者という不特定多数の人間の一人でも多くの人間に映像を見てもらわなければ商売に結びつかない。よって、どう視聴者をひきつけるのか。ひとつのものを大勢でつくりあげ、多くの視聴者の心にいかに訴えかけ視聴者の心をつかまえるのか、その勝負がみせる。このなかで下請けの製作会社のアニメー

ター役で出てくる小野花梨に存在感があった。

この映画を見ながら、手塚治虫のマンガ「フィルムは生きている」と、虫プロというアニメ制作会社のことを思い出した。

「フィルムは生きている」(1958～59年「中学一年コース」「中学二年コース」連載)は、宮本武蔵と佐々木小次郎の話をもとにした漫画映画をつくるうとするアニメーター二人の対決に置き換えている。最後は武蔵と小次郎が巖流島ではなく、各々が作ったアニメを映画館にかけて観客動員数を競うのだ。武蔵の剣士としての苦悩が、ここではアニメーターの苦悩として描かれる。武蔵は事故で盲目となってしまうのだが、アニメを完成させる。手塚治虫のアニメ愛溢れる傑作だ。

その手塚治虫にはアニメへの夢があった。紙の上で映画のような世界を描こうとしたが、所詮絵は動かない。この動かない絵を動かしたいという夢だ。デイズニーに憧れマンガ家を志した手塚治虫のめざす目標でもあった。

虫プロは手塚治虫がテレビアニメを作るために立ち上げた会社だ。自作の雑誌連載マンガ「鉄腕アト

ム」を動画にして毎週30分放映することを企図した。アニメはそれまで漫画映画、動画という呼称が一般的だった。漫画映画は1秒間に24枚の原画を描かなければならないので、毎週30分の番組を作るのは至難の技、無理だと思われる

いた。当時の漫画映画といえば、デイズニーが主流だった。国産の漫画映画は東映動画が「白蛇伝」(1958年)を送り出した。オールカラー(総天然色)と当時は言った)の作品で喝采をもって迎えられた。私も感動した口だ。デイズニーに負けない滑らかな動き、ドラマ性が衝撃的だった。それ以後、「猿飛

佐助」「西遊記」(これには手塚治虫も参加した)「シンデバットの冒険」などを生み出した。これらの漫画映画はフルアニメと呼ばれ、一秒間に24枚の原画を描いたので、スムーズな動きを表現できた。これに対して「鉄腕アトム」(1963年)は制作の制約もあり1秒間に原画12枚、8枚。動きがぎこちなくリミテッドアニメと呼ばれた。果たして東映動画のような動きがテレビ漫画で期待できるか。見るまでは心配だった。しかし、第1回目の放映日に、主題歌と共に始

まるタイトルを見たとき、「まずまずだ」「いいんじゃない」と一緒に見ていた妹とともに合格点を与えたものだ。ぎこちない動きでも満足できた。とにかく絵が動いている。おかしくない。アトムが歩くときのピコピコという効果音もよかった。「アトム」の成功を見てアニメの制作会社が林立し、「鉄人28号」「エイトマン」などがつくられアニメブームが巻き起こった。東映動画もテレビアニメ制作に乗り出した。「狼少年ケン」「少年忍者風のフジ丸」などを世に送り出した。子供たちや若者に夢を与えたアニメであるが、製作現場の過酷な状況も報じられるようになった。アニメ労働者の低賃金、重労働ぶりである。虫プロとして例外ではなかったようだ。山本映一の「虫プロ興亡記」などを読むと、製作現場の廊下に行倒れのように眠り込んでいるアニメ労働者の姿が描かれている。そんな時代を経て、東映動画で仕事をしていた宮崎駿が「風の谷のナウシカ」を発表して、時代の寵児となった。その後、多くの才能が出現して、今日のアニメは世界のアニメとしてもはやされるようになった。

(関田孝正)